

令和5年度大学教育再生戦略推進費
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の申請について

代表校名 (連携大学名)	岡山大学 (愛媛大学、香川大学、高知大学、高知県立大学、島根大学、徳島大学、 鳥取大学、広島大学、松山大学、山口大学) 計11大学
事業名 (全角20字以内)	地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成

事業の構想等

【様式1】

1. 全体計画 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の構想

①事業の概要

〈事業の概要〉(400字以内厳守)
本事業では、中国・四国地方9県全域にわたる11大学が連携し、「誰一人取り残さないがん対策」を推進できる人材育成を目指す。過疎地での放射線治療や病理診断を担う専門医を養成するとともに、オンライン診療技術なども取り入れて連携体制を構築する。本拠点で推進してきたチーム医療による患者本位の全人的医療教育を発展させる。高齢者がん・緩和・在宅医療教育体制を再編し、老年腫瘍学・腫瘍循環器学の教育科目を充実させ、新たな関連分野にも対応できる医療人を育てる。がんゲノム医療にユニバーサルスクリーニングを導入し、がん予防医療を推進できる医師やメディカルスタッフを養成する。本拠点が得意としてきた遺伝子治療の創薬研究や免疫療法の開発を発展させ、医薬品や医療機器開発を推進する人材を輩出する。チーム医療やがん看護リカレント教育、医学物理士養成など、本拠点の強みをさらに発展させ、中国・四国のがん医療の均てん化に努める。

②テーマごとの課題と対応策

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

課題・対応策
広域にわたる中国・四国地方は多くの山間地や離島などを有しており、特にこれらの過疎化が進む地域では十分ながん専門医療人の配置ができていないのが現状である。高齢化が進むこれらの地域では在宅でのがん医療が中心となることが多く、がん患者本人のみならず、その家族も含めた療養生活の質の向上を目指す必要がある。本拠点では、多彩なニーズに対応する高度な専門性の習得のみでなく、がん患者や家族の社会的・身体的・精神的ケアを幅広く行う全人的医療教育を行うことで、集学的な緩和ケアを実践できる人材を育成してきた。今回の本事業では、さらに緩和的使用を含めた高度な放射線治療を担う専門医や迅速診断にも対応できる病理診断医などを積極的に養成していく。特に、光子線治療による高精度化が進む将来を見据え、陽子線・重粒子線治療にも対応できるよう履修内容を工夫する。また、コロナ禍で普及したオンライン・ネットワークを活用し、放射線治療医や病理診断医が常駐できない過疎地においても細やかながん医療が提供できるオンライン診療を実践できる人材を育成する。さらに、人工知能(AI)技術を応用した画像診断やがん再発リスク評価を学ぶ教育科目も整備し、未来志向の人材育成も積極的に行っていく。高齢者がん・緩和・在宅医療教育体制を再編し、系統的に老年腫瘍学・腫瘍循環器学などの教育科目を充実させることで、これらの新たながん関連分野にも対応できる専門医療人を育てる。

テーマに関する強み

本拠点では、全人的医療が実践できる人材の養成のために、患者会を初めとするがん患者やその家族も参画する多職種が連携した教育体制を整備してきており、本事業でも細やかな終末期医療を行える人材養成に繋げていくことができる。妊孕性温存習得コースでは、より具体的な方法や課題を学ぶことで、がん患者・がん経験者に寄り添える人材を育成する。がん専門看護師コースでは、すでに疼痛看護やリンパ浮腫ケア、がんサバイバーシップ支援などの教育を行ってきており、がん患者のQOL向上に大きく貢献できる。また、オンライン診療についても、本拠点の特徴である「チーム医療合同演習」で「デジタルトランスフォーメーション(DX)時代におけるがん診療の在り方を考える」のテーマで早々に取り上げており、今後その実践に向けてより具体的なノウハウを教育していく予定である。多様なニーズの一つである高齢者がんに関しては、第3期事業でもe-learningコンテンツを充実させるなど積極的に推進してきたが、新たに山陰地方からがん地域医療学など特徴的な教育科目を持ち、「老年腫瘍学」を得意とする島根大学が加わることで、さらに系統的な教育体制を構築することが可能となる。

テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

課題・対応策

本拠点では、がん遺伝子パネル検査の普及によるがんゲノム医療の進展に伴い、積極的にエキスパートパネルへの陪席を推奨するなど遺伝子異常に基づいた個別化治療を実践できる専門医の育成を行ってきた。その過程で、偶発的に診断させる遺伝性腫瘍の未発症者の対応が不十分であることが明らかとなってきた。本事業では、新たに遺伝性腫瘍の遺伝子バリエーション保持者を対象としたサーベイランスや遺伝カウンセリングに対応できる専門医・専門看護師の養成コースを多施設で共有できるコース（インテンシブコース）として設置し、倫理的・社会的課題を含めて学ぶことで、幅広いがん予防の推進につなげる。また、ユニバーサルスクリーニングの導入を検討しており、より専門性の高いがん予防や治療選択を学べる環境を整備していく。栄養学的視点からのがん患者の支援も重要であり、管理栄養士を対象とした「がん予防栄養学」などの履修科目も積極的に発展させていく。さらに、医療データサイエンスに関する教育科目を充実させ、臨床医の医療ビッグデータの解析技術の向上を目指す。

テーマに関する強み

本拠点では、がんゲノム医療の専門性と多職種連携の習得を目的に「がんゲノム医療人育成コース（インテンシブコース）」を実施してきた実績があるが、今回の事業ではさらに複数の施設が連携して履修科目を共有することで、養成人材の増加と教育内容の質の向上が期待できる。がんゲノム医療中核拠点病院である岡山大学病院は、中国・四国地方の20を越えるがんゲノム医療連携病院と繋がっており、またがんゲノム医療拠点病院である広島大学病院、香川大学医学部附属病院、四国がんセンターも積極的にがんゲノム医療を推進している。本拠点では、がんゲノム医療の推進を基盤として、がん予防医療を実践する専門医療人養成に最適な教育環境を提供可能である。徳島大学では、臨床腫瘍栄養学コースとしてがん病態栄養専門管理栄養士を育成してきており、新たにがん予防栄養学を履修することで、未発症者やがんサバイバーに対する細やかなケアを実践できるメディカルスタッフを養成できる。

テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

課題・対応策

分子生物学的ながん研究の進歩により、がんの遺伝子変異やシグナル伝達経路の異常が発がんや悪性化につながるものが明らかになってきた。それらの情報に基づく個別化医療の開発が望まれているが、新たな創薬研究や医療機器開発には、十分な研究期間と承認審査までの段階的なプロセスの理解が必要である。本事業では、実際に開発段階にある治療用あるいは診断用医療シーズの臨床試験デザインの立案や実施計画書作成を体験させるとともに、レギュラトリーサイエンス教育を充実させることで科学的視点と行政的視点を習得させ、個別化医療の開発を推進できるがん専門医療人を養成する。また、がんゲノム医療と人工知能（AI）技術を融合したがんのリスク評価（再発予防）や高齢化社会に対応した体にやさしい遺伝子治療薬の開発、固形がんに対するCAR-T免疫療法の開発など、本拠点が得意としてきた革新的医療技術開発を経験させることで、未来世代にふさわしい領域の高度がん専門医療人の育成を積極的に推進していく。

テーマに関する強み

本拠点の連携施設では、様々な臓器由来のがんに対する免疫チェックポイント阻害薬を用いた免疫療法が、治験・臨床試験から実臨床レベルまで実施されており、がん薬物療法専門医による指導体制が確立されている。また、がん免疫療法に特徴的な副作用（irAE）を学ぶ「副作用マネジメントコース」などもすでに実施されており、がん免疫療法をより広く深く実践できる人材養成が可能な拠点と言える。さらに、中国・四国がんプロコンソーシアム内では、腫瘍融解ウイルスなどの遺伝子治療薬の創薬研究や新たな固形がんに対するCAR-T療法の開発、CTガイド下生検を行うロボット医療機器の臨床試験も進行しており、革新的医療技術開発を学び習得する教育環境が充実している。複数の大学発ベンチャーも設立されており、新たながん診断・治療法の開発を身近に感じることができる。

(2) 達成目標・評価指標

アウトプット

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：令和5年7月～令和6年4月
- ・教育プログラム・コースの実施数：42（医師コース：15、メディカルスタッフコース：14、インテンシブコース：13）を開設
- ・教育プログラム・コースの履修者数・修了者数

岡山大学

包括がん研究者・研究医養成プログラムがん研究医コース

R5年度：0名，R6年度：16名，R7年度：16名，R8年度：16名，R9年度：16名，R10年度：16名

医学物理コース

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

がんゲノム医療人育成コース（インテンシブコース）

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

医学物理コース（インテンシブコース）

R5年度：0名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

愛媛大学

がん専門医養成コース（腫瘍内科系専門医養成コース、腫瘍外科系専門医養成コース、放射線腫瘍医養成コース、基礎/ゲノム実践養成コース）

R5年度：2名，R6年度：6名，R7年度：6名，R8年度：6名，R9年度：6名，R10年度：6名

がんゲノム医療実践コース、AYA世代対応妊孕性温存習得コース、がん治療副作用マネージメントコース（インテンシブコース）

R5年度：21名，R6年度：21名，R7年度：21名，R8年度：21名，R9年度：21名，R10年度：21名

香川大学

がんプロフェッショナル養成コース（医師）

R5年度：3名，R6年度：3名，R7年度：3名，R8年度：3名，R9年度：3名，R10年度：3名

がんプロフェッショナル養成コース（メディカルスタッフ）

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

地域がん医療人共育コース（インテンシブコース）

R5年度：10名，R6年度：10名，R7年度：10名，R8年度：10名，R9年度：10名，R10年度：10名

高知大学

がん専門医コース

R5年度：0名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

がん専門薬剤師コース

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

がん医療における支持療法を担う地域がん専門医療人育成コース

～がん薬物療法における支持療法と緩和ケア～（インテンシブコース）

R5年度：0名，R6年度：9名，R7年度：9名，R8年度：9名，R9年度：9名，R10年度：9名

放射線治療・緩和的放射線治療医コース（インテンシブコース）（2大学）

R5年度：0名，R6年度：3名，R7年度：3名，R8年度：3名，R9年度：3名，R10年度：3名

高知県立大学

高度実践看護師コース：がん看護学領域

R5年度：0名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

リカレント教育プログラム：がんサバイバーシップを支える専門性の高い看護師養成コース（インテンシブコース）

R5年度：0名，R6年度：30名，R7年度：30名，R8年度：30名，R9年度：30名，R10年度：30名

島根大学

がん専門医療人育成コース

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

山陰地域がん専門医療スタッフ育成コース（インテンシブコース）

R5年度：5名，R6年度：10名，R7年度：10名，R8年度：10名，R9年度：10名，R10年度：10名

遺伝情報に基づく、ぬくもりのあるがん医療実践者を育成するコース（インテンシブコース）（4大学）

R5年度：5名，R6年度：5名，R7年度：5名，R8年度：5名，R9年度：5名，R10年度：5名

徳島大学

がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)コース

R5年度：2名，R6年度：3名，R7年度：3名，R8年度：3名，R9年度：3名，R10年度：3名

臨床腫瘍外科学コース

R5年度：1名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

臨床腫瘍放射線医学コース

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

臨床腫瘍薬剤師コース

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

高度実践がん看護学コース

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

臨床腫瘍栄養学コース

R5年度：4名，R6年度：7名，R7年度：7名，R8年度：7名，R9年度：7名，R10年度：7名

医学物理学コース

R5年度：5名，R6年度：10名，R7年度：10名，R8年度：10名，R9年度：10名，R10年度：10名

鳥取大学

腫瘍専門医コース

R5年度：0名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

がん看護専門看護師コース

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：0名，R8年度：1名，R9年度：0名，R10年度：1名

広島大学

がん専門医養成コース

R5年度：10名，R6年度：10名，R7年度：10名，R8年度：10名，R9年度：10名，R10年度：10名

がん専門薬剤師養成コース

R5年度：1名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

医学物理士養成コース(修士課程)

R5年度：2名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

医学物理士養成コース(博士課程)

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

医学物理士臨床研修課程(インテンシブコース)

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：1名，R8年度：1名，R9年度：1名，R10年度：1名

松山大学

がん医療重点コース

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：0名，R8年度：1名，R9年度：0名，R10年度：1名

がん薬物治療スキルアップコース(インテンシブコース)

R5年度：0名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

山口大学

領域別腫瘍専門医養成コース

R5年度：2名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

がん看護高度実践看護師コース

R5年度：0名，R6年度：1名，R7年度：0名，R8年度：1名，R9年度：0名，R10年度：1名

腫瘍免疫専門医養成コース

R5年度：2名，R6年度：2名，R7年度：2名，R8年度：2名，R9年度：2名，R10年度：2名

・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数

令和5年度：32回 1220名(10大学)、令和6年度：38回 1615名(11大学)、令和7年度：37回 1515名(11大学)、令和8年度：39回 1615名(11大学)、令和9年度：32回 1345名(11大学)、令和10年度：34回 1445名(11大学)

アウトカム

・各種がん専門医療者資格取得者数

がん治療認定医 日本消化器外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本消化器病学会専門医 日本呼吸学会呼吸器専門医 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 放射線治療専門医 放射線診断専門医 遺伝性腫瘍専門医 緩和医療認定医 緩和医療専門医 分子病理専門医 医学物理士 がん専門薬剤師 緩和薬物療法専門薬剤師 がん看護専門看護師 がん病態栄養専門管理栄養士 家族性腫瘍カウンセラー 等

・リカレント教育プログラムへの地域別参加者数・参加分布

・修了後の中国・四国地方のがん診療連携拠点病院への就職者数

・拠点地域内のがん拠点病院における放射線治療医等の不足解消

(3) 事業の運営体制

①学内の運営体制

11連携大学がコンソーシアム協議会を形成し、岡山大学に事務局を置き、カリキュラム企画運営委員会により全体の事業が計画・実行される。各連携校は学長の責任のもとで、附属病院の各診療科、域内のがん拠点病院の診療科などをまとめて教育体制を整えていく。連携大学が横断的に14のワーキンググループ（WG）を構築し、幹事校が統括・他大学を指導し、当該事業の計画を遂行する。第3期までに構築してきたe-learningシステムなどのICT技術を活用し、最新のがん情報をアップデートしていく。

②学外との連携体制

新たに島根大学、鳥取大学を加え、中国・四国全域をカバーした11大学の連携により、地域性、得意分野に特徴のある組織構築が可能となる。各大学は得意分野のWGの幹事校となりカリキュラム、事業計画を設計し他大学に提供する。また、地域の医師会や患者会と連携し本事業に関する講演会を実施、各自自治体との連携により市民公開講座などを開催する。また、全国がんプロ協議会にも参加し、中国・四国地方のがん診療の実態を共有して、他拠点との事業連携も推進する。

③評価体制

各専門分野の有識者と患者代表から成る外部評価委員会を設置し、定期的に事業進捗を確認するとともに、年1回現地あるいはオンライン開催で各連携大学と各WGの実績と問題点を検証する。これに基づきカリキュラム企画運営委員会で改善策を検討・実行する。各WGでは、定期的に事業の内部検証を行い、カリキュラム企画運営委員会に報告する。遺伝性腫瘍、遺伝カウンセリングに対応できる人材を養成するため、外部有識者による倫理的側面での評価体制を強化する。

(4) 成果の普及や事業の継続

①成果の普及

本事業で養成されたがんプロ修了者が、得られた医療技術・知識を中国・四国の各地域・施設における臨床現場に提供することで、高度に標準化された理想的ながん治療の均てん化と普及が達成される。各大学で、講演や小中高校生をはじめとした市民へのがん教育を行うことにより、社会への啓発を行う。中国・四国がんプロコンソーシアムWebサイトでは、事業に関する最新の情報を定期的に発信し、その成果を社会に知らしめる。がんプロの教育システムを南米・モンゴル・台湾等の海外医療者と共有することで、国際的にもその成果を普及させる。全国がんプロ協議会を通じ、本拠点で開発した人材養成モデルを全国に普及させる。これまで行ってきた小児・AYA世代がん、妊孕性温存、歯科・口腔外科に関する講習会も日単位の形式で継続・普及させていく。

②事業の継続

各大学は得意分野のWGを幹事校として掌握し、カリキュラムの運営に責任を持つ。本事業では、第3期がんプロで設置した4つのWGは継続するが、「高齢者がんWG」は新たに「老年腫瘍WG」として再編する。また、第1期、第2期から継続してきたWGは、現状に合わせて10に整理・再編する。将来的な補助期間終了後は、大学院のコースワークは各大学の大学院過程に組み込むことを目指し、またコンソーシアム体制を維持することでe-learning、単位互換、指導者の相互乗り入れ等の事業を継続して発展的ながん専門人の養成を行う。e-learning、チーム医療合同演習、がん薬物療法専門医等の専門医取得支援事業などは各大学の自己資金で継続する。

③第3期がんプロの継続状況

※代表校（申請大学）における第3期がんプロで開設した大学院正規課程コースを全て記載し、令和4年度の学生募集の有無を○×で選択してください（第3期がんプロで選定されていない大学は記入不要）。

番号	教育プログラム・コース名	令和4年度の学生募集の有無
1	がん専門医養成コース	○
2	がん専門職（がん専門・指導薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師）養成コース	○
3	高度実践看護師（がん看護専門看護師）コース	×
4	医学物理コース	○

2. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

R5年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 7～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 7～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 7～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催
R6年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 6～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 4～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催
R7年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 6～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 4～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催
R8年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 6～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 4～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催
R9年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 6～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 4～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催
R10年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4～3月 教育コースの企画運営、Webサイトの管理運営 ② 6～3月 コンソーシアム協議会の開催 ③ 7～9月 チーム医療合同演習の開催 ④ 4～3月 市民公開講座、各種セミナーの開催 ⑤ 1～3月 外部評価委員会の開催と最終成果報告書の作成
R11年度 [補助期間 終了後]	各大学で予算措置を講じて、必要な教育コースを継続、発展させる。

総表

1. 参加大学の状況

拠点病院の指定やがんに特化した講座設置等に該当する場合は○を、補助事業期間中に指定取得や設置等を計画している場合は□を選択してください。(既に講座があり、追加を計画している場合には■を選択してください。)

大学名	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院	小児がん拠点病院	がんゲノム医療病院			がんに特化した講座				バイオバンク	大学ごとのR5補助金配分額(千円)	
	都道府県	地域(高度型)	地域	地域(特例型)			特定領域	中核拠点	拠点	連携	薬物療法	放射線治療	緩和医療			その他
岡山大学	○												○	○	○	27,329
愛媛大学			○							○	○		○	○		7,390
香川大学	○								□	○			○	□		3,467
高知大学	○										○	○				3,126
高知県立大学																4,377
島根大学	○					□				○	○	○	○	■	□	3,300
徳島大学	○									○	○	○	○	■	○	10,232
鳥取大学	○									○	○	○	○			3,300
広島大学	○					○		○		○	○				○	5,002
松山大学																227
山口大学	○										○			○		9,720

がん に 特 化 し た 講 座 の 名 称	岡山大学: 緩和支援医療科、臨床遺伝子医療学 愛媛大学: 臨床腫瘍学講座 香川大学: 臨床腫瘍学講座、ゲノム医科学・遺伝医学講座 (R5設置予定) 高知大学: 放射線腫瘍学講座、緩和医療科 島根大学: 先端がん治療センター 徳島大学: 腫瘍内科学分野、臨床腫瘍医療学分野、放射線医学分野、放射線治療学分野、緩和医療センター 鳥取大学: 放射線治療科、緩和ケア科、腫瘍内科 広島大学: がん化学療法科学講座、放射線腫瘍学講座 山口大学: 放射線腫瘍学講座、臨床検査・腫瘍学講座、消化器・腫瘍外科学講座
バイオバンクの保存試料数(がん関係)	バイオバンクを設置している大学は以下の5大学であり、令和5年4月時点での保存試料数(がん関係)は以下の通りである。 岡山大学: 約5,200人分 愛媛大学: 約100人分 島根大学: 約300人分 徳島大学: 約300人分 広島大学: 約16,000人分

2. 教育プログラム・コース一覧

(1) 大学院正規課程コース

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	養成する職種に○、がん専門資格と連動している場合◎を選択					
				医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外
岡山大学	テーマ①	包括がん研究者・研究医養成プログラムがん研究医コース	80	◎					
岡山大学	テーマ②	包括がん研究者・研究医養成プログラムがん研究医コース		◎					
岡山大学	テーマ③	包括がん研究者・研究医養成プログラムがん研究医コース		◎					
岡山大学	テーマ①	医学物理コース	5					◎	
愛媛大学	テーマ①	腫瘍内科系専門医養成コース	10	◎					
愛媛大学	テーマ①	腫瘍外科系専門医養成コース	12	◎					

愛媛大学	テーマ①	放射線腫瘍医養成コース	5	◎					
愛媛大学	テーマ③	基礎/ゲノム実践養成コース	5	◎					
香川大学	テーマ②	がんプロフェッショナル養成コース	18	◎					
香川大学	テーマ②	がんプロフェッショナル養成コース	6				○	○	
高知大学	テーマ①	がん専門医コース	10	◎					
高知大学	テーマ①	がん専門薬剤師コース	5			◎			
高知県立大学	テーマ①	高度実践看護師コース:がん看護学領域	10				◎		
島根大学	テーマ①	がん専門医療人育成コース	6	◎					
徳島大学	テーマ①	がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)コース		◎					
徳島大学	テーマ②	がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)コース	17	◎					
徳島大学	テーマ③	がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)コース		◎					
徳島大学	テーマ①	臨床腫瘍外科学コース		◎					
徳島大学	テーマ②	臨床腫瘍外科学コース	11	◎					
徳島大学	テーマ①	臨床腫瘍放射線医学コース		◎					
徳島大学	テーマ②	臨床腫瘍放射線医学コース	6	◎					
徳島大学	テーマ③	臨床腫瘍薬剤師コース	6			◎			
徳島大学	テーマ②	高度実践がん看護学コース	6				◎		
徳島大学	テーマ②	臨床腫瘍栄養学コース	39					◎	
徳島大学	テーマ①	医学物理学コース						◎	
徳島大学	テーマ②	医学物理学コース	55					◎	
鳥取大学	テーマ①	腫瘍専門医コース	10	◎					
鳥取大学	テーマ②	がん看護専門看護師コース	3				◎		
広島大学	テーマ①	がん専門医養成コース	60	◎	◎				
広島大学	テーマ①	がん専門薬剤師養成コース	6			◎			
広島大学	テーマ①	医学物理士養成コース(修士課程)	12					◎	
広島大学	テーマ③	医学物理士養成コース(博士課程)	5					◎	
松山大学	テーマ①	がん医療重点コース				○			
松山大学	テーマ②	がん医療重点コース	3			○			
松山大学	テーマ③	がん医療重点コース				○			
山口大学	テーマ①	領域別腫瘍専門医養成コース	12	○					
山口大学	テーマ①	がん看護高度実践看護師コース	3				◎		
山口大学	テーマ③	腫瘍免疫専門医養成コース	12	○					
合計			438						

(2) インテンシブコース ※コースワークで複数の科目等を履修するものとし、1日～数日間の講習会は除く。

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外
岡山大学	テーマ③	がんゲノム医療人育成コース	6	◎		◎	◎	◎	◎
岡山大学	テーマ①	医学物理コース	10					◎	
愛媛大学	テーマ②	がんゲノム医療実践コース	42	◎		◎	◎		
愛媛大学	テーマ①	AYA世代対応妊孕性温存習得コース	42	◎			◎		
愛媛大学	テーマ①	がん治療副作用マネージメントコース	42	◎		◎	◎		
香川大学	テーマ②	地域がん医療人共育コース	60	○		○	○	○	
高知大学	テーマ①	がん医療における支持療法を担う地域がん専門医療人育成コース～がん薬物療法における支持療法と緩和ケア～	45	◎		◎	○		
高知大学	テーマ①	放射線治療・緩和的放射線治療医コース	15	◎					
高知県立大学	テーマ②	リカレント教育プログラム:がんサイバーシップを支える専門性の高い看護師養成コース	150				◎		
島根大学	テーマ①	山陰地域がん専門医療スタッフ育成コース	55	◎		◎	◎	◎	
島根大学	テーマ②	遺伝情報に基づく、ぬくもりのあるがん医療実践者を育成するコース	30	◎		◎	◎	◎	
広島大学	テーマ①	医学物理士臨床研修課程	5					◎	
松山大学	テーマ①	がん薬物治療スキルアップコース	10			○			
松山大学	テーマ②	がん薬物治療スキルアップコース				○			
合計			512						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
教育プログラム・コース名	包括がん研究者・研究医養成プログラム_がん研究医コース（正規課程）
対象職種・分野	医歯薬学総合研究科 大学院生（医師）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	当コースでは、がんの基礎研究から臨床に関する最新の知識に加えて、多職種連携によるチーム医療も学んだ高水準な専門性を有するがん専門医を養成する。その結果、がん予防を推進できる人材、がん医療現場で顕在化した課題に対応する放射線治療医、病理医や、がんゲノム医療、個別化医療を推進できる人材、新たながん治療法を開発できる人材を輩出する。
修了要件・履修方法	所定の30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 研究方法論基礎（1単位） 研究方法論応用（2単位） 医療倫理と法律的・社会的問題（0.5単位） 医療対話学（コミュニケーションスキル）（0.5単位） 悪性腫瘍の管理と治療（1単位） がんチーム医療実習（0.5単位） 医療情報学（0.5単位） がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学（1単位） がんの病理診断・放射線診断学（0.5単位） 臓器別がん治療各論（2単位） がん緩和治療（0.5単位） 臨床腫瘍学実習I, II（各8単位） 課題研究（4単位）</p> <p><選択科目> <u>医療データサイエンス（2単位）、がん微小環境学 基礎（2単位）、がん微小環境治療学（2単位）、グローバル・プレゼンテーション1、2（各1単位）</u></p>
がんに関する専門資格との連携	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） がん薬物療法専門医、腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会） 緩和医療専門医、緩和医療認定医（日本緩和医療学会） 放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）、分子病理専門医（日本病理学会） 遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会） の他、がん診療に関連する各臨床分野の専門資格取得と連携
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院生の受講を可能とするため、e-learning やオンラインで視聴できる環境を整備し、積極的にコンテンツを充実させている。 ・多職種連携によるチーム医療については、連携他大学との合同演習を必修としており、指導教官にファシリテーターとしての参加を推奨している。 ・新規に医療ビッグデータや、がん免疫療法の基礎と臨床に関わる内容を学ぶ選択科目を加え、次世代の医療への応用力を身につける課程となっている。
指導体制	本コースでは最先端の各種がんの診断、治療を行っている臨床診療科の研究室に配属され、革新的な診断、治療の研究に従事する。学生には各種専門がん医療資格の取得に関してもきめ細やかな指導を受けられる。岡山大学では、腫瘍融解ウイルスなどの遺伝子治療薬や中性子医療等の創薬研究、CTガイド下穿刺、生検を行うロボット医療機器などの臨床試験も進行しており、革新的医療技術開発に関する教育環境が充実している。また、がんゲノム医療中核拠点病院でもあり、基礎から臨床までそれぞれの領域・分野の強みを活かした指導体制で人材育成を行う。
修了者の進路・キャリアパス	各臨床分野において高い専門性を備えたコース修了者の多くは卒業後に中国・四国地方の大学病院、がん診療病院に赴任し、地域でのがん診療・研究を担う人材となる。また彼らはがんプロ在学中に築きあげた人的ネットワークを生かし、地域がん診療ネットワークの中心的人材としての活躍が期待される。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
—	16	16	16	16	16	16	80
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院入学者の実績から、毎年度16人の志願者を見込み、受入れ目標人数を80人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院保健学研究科・ヘルスシステム統合科学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理コース（正規課程）
対象職種・分野	その他の医療職・医学物理分野
修業年限（期間）	博士前期課程2年
養成すべき人材像	がん医療における人材育成の強化により、がん診療連携拠点病院を中核として地域に定着し、多職種連携・チーム医療の実践ならびに研究、教育の一端を担う優れたがん放射線医療専門人、AI技術（機械学習・ビッグデータ解析等）を主軸とした次世代医療に貢献できる専門人の養成を主目的とする。
修了要件・履修方法	本課程に2年以上在籍して、所定の単位（30単位以上）を習得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。 所定の単位は、①がんプロの共通コアカリキュラム4単位以上（保健学研究科・ヘルスシステム統合科学研究科共通）、②がん専門コメディカル共通科目2単位以上（保健学研究科・ヘルスシステム統合科学研究科共通）、③専門科目14単位以上（保健学研究科）、④選択科目10単位以上（保健学研究科）、⑤統合科目24単位以上（ヘルスシステム統合科学研究科）、合計30単位以上とする。
履修科目等	<p><共通コアカリキュラム> がんチーム医療実習（0.5単位）、研究方法論応用（1単位）、悪性腫瘍の管理と治療（1単位）、医療倫理と法律的・社会的問題（0.5単位）、医療情報学（0.5単位）、医療対話学（コミュニケーションスキル）（0.5単位）。</p> <p><がん専門メディカルスタッフ共通科目> がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学（1単位）、がんの病理診断・放射線診断学（0.5単位）、臓器別がん治療各論（2単位）、がん緩和治療（0.5単位）。</p> <p><医学物理コース専門科目（保健学研究科：保、ヘルスシステム統合科学研究科：へ）> 医用物理学特論（2単位、保）、医用物理学演習（2単位、保）、放射線治療技術学特論（2単位、保）、ほか12科目（24単位、保）。生命健康情報理工学特論Ⅰ（1単位、へ）、生命健康情報理工学特論Ⅱ（1単位、へ）、光計測工学特論（1単位、へ）、知能工学特論（1単位、へ）、医用ロボット学特論（1単位、へ）、生体材料設計学（2単位、へ）、生体材料科学（1単位、へ）、生体分子輸送学（1単位、へ）、組織工学概論（1単位、へ）、音声情報処理特論Ⅰ（1単位、へ）、音声情報処理特論Ⅱ（1単位、へ）、情報学習理論（1単位、へ）、ほか42科目（48単位、へ）</p> <p><医学物理コース選択科目（保健学研究科）> 医療情報理工学特別研究（10単位）、放射線健康支援科学特別研究（10単位）。</p> <p><医学物理コース統合科目（ヘルスシステム統合科学研究科）> ヘルスシステム統合科学特別研究（10単位）、医学研究概論（1単位）、実践ヘルスシステム統合科学（1単位）、ヘルスシステム統合科学序論（1単位）、ヘルスシステム統合科学総論（1単位）、先進病院実習（2単位）、ほか16科目（18単位）</p>
がんに関する専門資格との連携	医学物理士（医学物理士認定機構）、放射線治療専門診療放射線技師（放射線治療専門放射線技師認定機構）、放射線治療品質管理士（放射線治療品質管理機構）、医療情報基礎知識検定・医療情報技師能力検定（医療情報学会）と連携。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	既存の大学院教育システムを発展的に改革し、がん放射線医療ならびにがん医療の実践に必要な専門教育課目について、複数の研究科（医歯薬学・保健学・ヘルスシステム統合科学）・関係部局（岡山大学病院等）と協働で高度な専門教育を展開し、地域医療の拡充に資する人材育成を行うことを目指す。また、共通科目、専門科目にe-learning等の補助教材を有効活用し、効果的に高度専門教育が受けられる環境を提供する。

指導体制	<p>これまで所定のカリキュラムに従い、医師、診療放射線技師等の実務家教員（歯歯薬学研究科、保健学研究科、外部）による講義・演習を展開し、教育体制の基盤を確立しているが、本事業では更にヘルスシステム統合科学研究科と連携し、地域や医療現場の課題解決に関わる専門教員らによる系統的な教育体制を構築することが可能となる（岡山大学が参画している国家戦略特別区域（デジタル田園健康特区）、岡山西リビングラボ等）。</p>						
修了者の進路・キャリアパス	<p>がん診療連携拠点病院を中核として地域に定着し、高度ながん放射線診療を支える専門知識や臨床スキルを身につけた医療人・企業人を養成する。キャリアパスとして、博士前期課程修了後、博士後期課程へ進学もしくは放射線治療施設、粒子線治療施設において、医学物理士、放射線治療専門診療放射線技師、放射線治療品質管理士等の高度専門職もしくは医療関連企業への就業を目指す。</p>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	<p>岡山県内の7つのがん診療連携拠点病院に放射線治療専門技師、医学物理士を最低放射線治療装置1台あたりそれぞれ2人、1人ずつ配置することを目標にすると、放射線治療装置（リニアック）が10台、小線源治療装置（RALS）が2台、陽子線治療装置が1台あることから、現在既に就業している放射線治療専門技師が21人、放射線治療品質管理士が12人、医学物理士が8人のため、今後5年間でそれぞれ5人程度を養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年1～2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定する。</p>						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療人育成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、がん専門相談員、MSW、バイオインフォマティシャン、その他がんゲノム医療に興味を持っている医療人						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療外来やエキスパートパネルに陪席することでがんゲノム医療を学ぶ ・エキスパートパネルの準備過程に参画してがんゲノム医療全体を把握する ・がん家族歴聴取と遺伝性腫瘍のリスク判定を学ぶ 						
修了要件・履修方法	本コースの実習、セミナー等を受講する。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療エキスパートパネル参加◎・・・3単位（1単位/1回×3回） ・がんゲノム医療外来実習（エキスパートパネル準備を含む）◎・・・3単位（1単位/1回×3回） ・遺伝外来実習（外来陪席）・・・1単位/1回 ・岡山臨床遺伝カンファレンス等への参加（講演）◎・・・1単位/1回 ・遺伝性腫瘍エキスパートパネル参加◎・・・3単位（1単位/1回×3回） ・関連セミナーあるいはシンポジウム等への参加・・・1単位/1回 ・学会・研究会などでの成果公表・・・5単位/1回 <p>※◎印は必修 【年間20単位以上取得した者には修了証を発行】</p>						
がんに関する専門資格との連携	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム認定修了証発行						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんゲノム医療の専門性と多職種連携を習得できるように務める。これまで実施していた教育プログラム・コースでは、がんゲノム導入初期であったため短期間で実務内容を習得を希望する履修生が多かったが、令和5年度以降は通年コースで時間をかけて教育することで、実地臨床となったがんゲノム医療をさらに発展的させることが出来る人材育成を行う。						
指導体制	岡山大学病院がんゲノム医療推進センター等のスタッフは、2018年から開始したAMEDゲノム医療従事者の育成プログラム開発（研究開発代表者 豊岡伸一）から一貫してがんゲノム医療にかかる人材育成を行ってきた実績がある。岡山大学病院ゲノム医療総合推進センターでは人材育成部門（部長豊岡伸一）を設置して地域医療のなかでがんゲノム医療の均てん化に努めてきた。これらのノウハウを活用して、次世代のがんゲノムに関わる医療者を実践者を育成することを目指す。（豊岡伸一、富田秀太、遠西大輔、二宮貴一朗、山本英喜、平沢晃、三浦太郎、蓮岡佳代子、井上博文）						
修了者の進路・キャリアパス	地域医療としてのがんゲノム医療の推進者となることが期待される						
受入開始時期	令和5年7月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム岡山大学「がんゲノム医療人育成コース」は2019年度の開講以降、4年間で計3名が旧通年コースを終了しており、受入数の根拠とした。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学大学院保健学研究科・ヘルスシステム統合科学研究科						
教育プログラム・コース名	医学物理コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	その他の医療職・医学物理分野						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん医療における人材育成の強化により、がん診療連携拠点病院を中核として地域に定着し、多職種連携・チーム医療の実践ならびに研究、教育の一端を担う優れたがん放射線医療専門人、AI技術（機械学習・ビッグデータ解析等）を主軸とした次世代医療に貢献できる専門人の養成を主目的とする。						
修了要件・履修方法	教育プログラム化された体系的な講義・セミナー（月1～2回開催）を受講する。所定の回数（8割程度）以上参加した場合のみ、本事業から修了認定証を発行する。						
履修科目等	悪性腫瘍の管理と治療、放射線生物学、放射線物理学、放射線技術学、放射線機器工学、放射線計測学、放射線治療計画技術学、放射線治療品質管理学、放射線安全管理学、放射線管理学、医療安全学、放射線看護学、医療倫理学、医学物理学、チーム医療論、 画像情報工学（AI） 、 医療情報学 等。						
がんに関する専門資格との連携	医学物理士（医学物理士認定機構）、放射線治療専門診療放射線技師（放射線治療専門放射線技師認定機構）、放射線治療品質管理士（放射線治療品質管理機構）、医療情報基礎知識検定・医療情報技師能力検定（医療情報学会）と連携。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	既存の大学院教育システムを発展的に改革し、がん放射線医療ならびにがん医療の実践に必要な専門教育科目について、複数の研究科（医歯薬学・保健学・ヘルスシステム統合科学）・関係部局（岡山大学病院等）と協働で高度な専門教育を展開し、地域医療の拡充に資する人材育成を行うことを目指す。また、共通科目、専門科目にe-learning等の補助教材を有効活用し、効果的に高度専門教育が受けられる環境を提供する。						
指導体制	これまで所定のカリキュラムに従い、医師、診療放射線技師等の実務家教員（医歯薬学総合研究科、保健学研究科、外部）による講義・演習を展開し、教育体制の基盤を確立しているが、本事業では更にヘルスシステム統合科学研究科と連携し、地域や医療現場の課題解決に関わる専門教員らによる系統的な教育体制を構築することが可能となる（岡山大学が参画している国家戦略特別区域（デジタル田園健康特区）、岡山リビングラボ等）。						
修了者の進路・キャリアパス	地域に根ざした質の高いがん医療やチーム医療の実践応用にあたり、臨床現場においてがん放射線診療を支える専門知識や臨床スキル、他職種連携などチーム医療に精通する医療人を養成し、輩出する。また、次世代を担う優れたがん放射線医療専門人として、がん・緩和放射線医療の高度化および地域間の連携に大きく貢献することが期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	2	2	2	2	2	10

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

岡山県内の放射線治療施設に放射線治療専門技師、医学物理士を最低放射線治療装置1台あたりそれぞれ2人、1人ずつ配置することを目標にすると、放射線治療装置（リニアック）が16台、小線源治療装置（RALS）が3台、陽子線治療装置が1台あることから、現在既に就業している放射線治療専門技師が35人、放射線治療品質管理士が25人、医学物理士が8人であるが、中堅の人材育成が進んでいないため、若手のリカレント教育拡充が必要である。今後5年間で退職および管理職となる人材は放射線治療専門技師が15人、放射線治療品質管理士が10人、医学物理士が5人程度いることが予想されるため、10人程度の中堅人材育成が必要である。過去のインテンシブコース志願者数及びニーズ調査から毎年2～3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定する。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛媛大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース（博士課程）（4つのコース設定を計画） <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍内科系専門医養成コース ・腫瘍外科系専門医養成コース ・放射線腫瘍医養成コース ・基礎/ゲノム実践医養成コース
対象職種・分野	愛媛大学大学院医学研究科医学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん患者の肉体ならびに精神において集学的に診療出来る人材を養成する。即ち、診断・治療から終末期にかけて、また小児・AYA世代から高齢者にかけての高度な知識とスキルを持つ、チーム医療の担い手・リーダーとなるべき医療人を養成する。このためには、今後訪れる次世代のオーダーメイド医療（precision medicineやゲノム医療）や、様々な社会的な要望（緩和医療や医療経済等にも対応する人材等）にも精通している人材であることが必要である。
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程の場合、4年以上在学し、指導教員の指導の下に次に定める単位を取得するとともに、<u>国内外で評価されている英文雑誌に学位論文を発表する</u>。また、<u>国際的なプレゼンテーション能力を評価する目的で、審査員の前で英語で自身の学位研究を発表し、審査員による口頭試問に合格することが履修要件とする</u>。（3年次の早期修了も認める。） 履修単位数は、 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床腫瘍学教育課程共通コア科目：4単位 ・臨床腫瘍学教育課程がん専門医共通科目：4単位 ・臨床腫瘍医専門科目：12単位 ・選択科目：10単位以上 と定める。
履修科目等	必修科目（20単位） <ul style="list-style-type: none"> ・臨床腫瘍学教育課程共通コア科目（講義、演習及び実習）4単位 ・臨床腫瘍学教育課程がん専門医共通科目（講義及び実習）4単位 ・臨床腫瘍医専門科目（演習及び実習）12単位 *中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供する年1回のチーム医療実習を必ず履修する必要がある。 *がんゲノム医療への参画は臨床腫瘍医専門科目（演習及び実習）12単位に含まれ、具体的には、 <u>学生自身が経験したがん患者でゲノムプロファイリング検査を（3例以上）実施し、全ての症例でエキスパートパネルでのプレゼンを必須とする</u> 。 選択科目（10単位以上） <ul style="list-style-type: none"> ・当コース以外のコースの教員が開講する授業科目、専攻共通科目ならびに当コースが認める特別講義・セミナー ・小児ならびにAYA世代のがん治療に関する特別講義・実習・オーダーメイド医療（precision medicine、ゲノム医療）や社会的な要望に精通する特別講義・実習（e-learning講義を利用しても良い） ・県内外のがん診療連携拠点病院に短期間（3-6ヶ月程度）出向し実習を経験 ・<u>基礎/ゲノム実践医養成コースの学生に関しては、がんゲノム中核・連携施設での実習（Web参加可）を必須とし、10例以上がんゲノムプロファイリング検査を経験する。更に自身の基礎研究を支援する目的で、基礎医学教室との定期的な基礎研究カンファレンスを経験する（カンファレンスへの参加はレポートを提出した場合単位として認定）。また、自身の大学院での研究内容を（3年時に）英語で発表する「進捗状況プレゼン」を実施する（2単位の实習単位）。</u>
がんに関する専門資格との連携	当施設は、がん治療認定医機構の認定研修施設、日本臨床腫瘍学会の認定研修施設、ならびに日本医学放射線学会の認定施設であり、こういった機構・学会が認定する専門医の資格取得が可能である。

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>社会的要望でもある、患者自身が地域で生活を続けながら高度のがん医療を享受出来る社会を実現するため、小児・AYA世代から高齢者にかけて、肉体的・精神的に診療できる次世代の医療人を養成する。このためには、従来の大学院教育を越えた施設や団体での教育、ならびにWebを用いた遠隔授業・実習を積極的に取り入れる。具体的には、愛媛県がん患者会「NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会」と連携し、がん患者が求める医療に接する体験実習・緩和医療学演習を提供する。また、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが提供するe-learning教材を活用することにより、質の高い大学院講義を提供する。選択可能科目には、他地域のがん診療や臨床研究を体験するために、県内外のがん診療連携拠点病院並びに研究施設に短期間(3-6カ月程度)派遣するプログラムや、precision medicineの知識を習得する目的で、がんゲノム中核・連携施設でのがんゲノムプロファイリング検査の実習を提供する。更に、各分野で精通する講師を招へいし、特別講義・実習を提供する。また、今回新たに設定を予定する「基礎/ゲノム実践医養成コース」では、次世代のがん研究を担う医師の養成を想定し、基礎研究部門との積極的な交流をはかり、基礎学問の知識やその習得を支援する。加えて、海外(特にアジア地区や東ヨーロッパ)からの留学生と交流する事で、当プログラムに携わる学生や教員のモチベーションを上げ、また国際貢献に寄与する。なお、学生の希望やニーズに応じて、大学院入学後のコース変更には柔軟に対応する。</p>							
<p>指導体制</p>	<p>医学系研究科長・医学部長 羽藤 直人 (事業・計画の総括) 大学院医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学教授/附属病院腫瘍センター長 薬師神 芳洋 (愛媛大学教育プログラム責任者、計画の推進、がん薬物療法ならびに希少がん治療の指導ならびに実習指導) 大学院医学系研究科 社会・健康領域 医学教育学教授 小林 直人 (本計画の立案、シラバス作成、単位認定制度の整備) 大学院医学系研究科 分子・機能領域 小児科学教授 江口 真理子 (小児・AYA世代医療ならびにゲノム医療教育) 大学院医学系研究科 器官・形態領域 放射線医学教授 城戸 輝仁 (放射線治療ならびに緩和的放射線治療学の指導教育) 大学大学院医学系研科 生化学・分子遺伝学分野教授/愛媛大学プロテオサイエンスセンター教授 東山 繁樹 (基礎研究の指導と基礎研究の成果を如何に臨床に反映させるかの指導・教育) 大学院医学系研究科 病態生理学講座教授/愛媛大学プロテオサイエンスセンター複合体生命機能解析領域病態生理解析部門教授 今井 祐記 (基礎研究の指導と基礎研究の成果を如何に臨床に反映させるかの指導・教育) 大学院医学系研究科 病因・病態領域 分子病理学准教授 北澤 理子 (病理診断医の養成と再教育) 大学院医学系研究科 器官・形態領域 泌尿器科学講師 三浦 徳宣 (外科治療の指導教育ならびに妊孕性保存に関する指導) 大学院医学系研究科 病因・病態領域 産科婦人科学助教 安岡 稔晃 (外科治療の指導教育ならびに妊孕性保存に関する指導) 大学院医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 非常勤講師/愛媛県立中央病院小児科 石田 也寸志 (AYA世代に対するがん治療と小児がんにおけるQOL教育) 大学院医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学非常勤講師/NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会代表 松本陽子 (がん患者とその家族に寄り添うがん治療の指導) *基礎研究と臨床(緩和医療を含む)とを融合させる教育体制を構築する。この中にごん患者会やがん診療連携拠点病院で実地臨床に携わる医師、ならびにAYA世代に対するがん治療と小児がん診療に携わる医師を教育者として配置する。</p>							
<p>修了者の進路・キャリアパス</p>	<p>全人的な医療人の養成を目標とする本プログラムの最終的な目標は、地域にありながら高度のがん医療や緩和医療を住民が享受出来る社会の実現であり、このために本コース修了者の積極的ながん診療連携拠点病院への就職ならびに、地域の拠点となる四国がんセンターやがん診療連携拠点病院での研鑽ならびに教育職への就職を推進する。このためには、行政とのタイアップも必要と考える。</p>							
<p>受入開始時期</p>	<p>令和5年10月</p>							
<p>受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</p>	<p>R5年度</p>	<p>R6年度</p>	<p>R7年度</p>	<p>R8年度</p>	<p>R9年度</p>	<p>R10年度</p>	<p>計</p>	
<p>受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠</p>	<p>2</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>32</p> <p>県内の6つのがん拠点病院(愛媛大学医学部附属病院は除く)に将来がん専門医を最低4人ずつ配置することを目標にすると、令和5年から4年間で20人の入学を想定する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度5-6人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を6人と設定。</p>							

教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛媛大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療実践コース（インテンシブコース）、AYA世代対応妊孕性温存習得コース（インテンシブコース）、がん治療副作用マネージメントコース（インテンシブコース）
対象職種・分野	医師、看護師、薬剤師
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	「がんゲノム医療実践コース」においては、がんゲノム医療に精通した医療者を養成、「AYA世代対応妊孕性温存習得コース」においてはAYA世代に共通する問題を共有し、特に孕性温存にフォーカスをあて医療者側に基礎知識の充実を計画する。「がん治療副作用マネージメントコース」においては、既にごん治療の主流となりつつある免疫チェックポイント阻害剤使用時のマネージメント方法を、当施設が実施するiPadやスマートフォンを用いたAI管理の状況を学ぶことにより、管理のポイントを習得する事を計画する。
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんゲノム医療実践コース」では、エキスパートパネルへの参加を必須とし、自身が経験したがん患者のがんゲノムプロファイリング検査5例のプレゼンと、その資料・レポートの提出を履修条件とする。 ・「AYA世代対応妊孕性温存習得コース」に関しては、年4回程度行われる当該地域でのAYA世代対応妊孕性温存に関する講演会・症例検討会に参加し、自身の症例を提示する等の活動報告・レポートの提出を履修条件とする。 ・「がん治療副作用マネージメントコース」は当該施設で行われている、iPadやスマートフォンを用いた管理の状況を集計し、学術集会等で発表する。こういった実習を通じて各患者の管理についてを習得する事が履修条件とする。また、知識の習得の目的で、中国・四国がんプロが提供する免疫チェックポイントに関するe-learningの視聴を義務付ける。
履修科目等	<p>「がんゲノム医療実践コース」では、毎週行われるエキスパートパネルへの参加を1回1単位として計算し、自身が経験したがん患者のがんゲノムプロファイリング検査5例（1症例2単位）のプレゼン単位とし、資料・レポートの提出（5単位）を含め、計25単位以上を履修条件とする。</p> <p>「AYA世代対応妊孕性温存習得コース」に関しては、年4回程度行われる当該地域でのAYA世代対応妊孕性温存に関する講演会・症例検討会に参加し、自身の症例を提示する等の活動報告・レポートの提出（1回2単位）総計10単位以上を履修条件とする。</p> <p>「がん治療副作用マネージメントコース」では、2年間で2回（1回5点）の学術集会での発表を必須とし、計10単位を履修条件とする。</p>
がんに関する専門資格との連携	インテンシブコースに関しては専門資格との連携は無いが、「がんゲノム医療実践コース」受講者に関しては、臨床遺伝専門医等の資格取得を努力義務とする。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本インテンシブコースは新たな資格等の取得を目的とした教育プログラムでは無い。むしろ、地域のがん診療連携拠点病院に配属されている医療者の知識やスキルのアップを目的とし、これを通じて各施設のボトムアップを主な目的とする。

指導体制	<p>大学院医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学教授/附属病院腫瘍センター長 薬師神 芳洋 (インテンシブコースプログラムの責任者、計画の推進)</p> <p>大学院医学系研究科 分子・機能領域 小児科学教授 江口 真理子 (小児・AYA世代医療ならびにゲノム医療教育)</p> <p>大学院医学系研究科 器官・形態領域 泌尿器科学講師 三浦 徳宣 (免疫チェックポイント阻害在の指導教育)</p> <p>大学院医学系研究科 病因・病態領域 産科婦人科学助教 安岡 稔晃 (妊孕性保存に関する指導)</p> <p>大学院医学系研究科 分子・機能領域 小児科学 非常勤講師/愛媛県立中央病院 小児科 石田 也寸志 (AYA世代に対するがん治療と小児がんにおけるQOL教育) *石田也寸志氏は、聖路加国際病院小児科にて小児・AYA世代がん患者の長期フォローアップの重要性を報告してきた臨床医である。現在その活動を愛媛県立中央病院に移され活躍されている事から、この分野の問題点や重要性、更には全国展開の内容を大学院生にご指導頂く。</p> <p>大学院医学系研究科 分子・機能領域 臨床腫瘍学非常勤講師/NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会代表 松本陽子 (がん患者とその家族に寄り添うがん治療の指導) *松本陽子氏は、全国がん患者団体連合会副理事長としてがん対策基本法の策定に関与された患者会の代表であり、患者会の視点からがん対策ならびにがん医療を指導して頂く予定である。</p> <p>上記の指導体制により、地域でがんを享受しても安心して暮らせる社会の実現のため、受講者に対し知識の習得と各施設のボトムアップを計画する。</p>							
修了者の進路・キャリアパス	<p>本プログラムはがん診療に携わる医療者に対する再教育プログラムである。即ち、履修者のボトムアップを想定し、キャリアパスは考慮しない。</p>							
受入開始時期	令和5年7月							
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠	21	21	21	21	21	21	126	
	<p>本プログラムはがん診療に携わる医療者に対する再教育プログラムである。このため、受入人数に関しては上限は無く、当該地域にあるがん診療連携拠点病院(7施設)から年間3名程度の参加を想定する。</p>							

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻 高度医療人育成コース						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療に精通したがん専門医 ・研究・生命倫理に関し高い見識を有する専門医 ・国際的視野を有し、教育・臨床研究の志向を持ったがん専門医 ・多職種と連携してがん治療が行えるがん専門医 						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>大学院に4年以上在学し、当該研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p><履修方法> 次の区分により30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(1) 共通科目 6単位 (2) 専門科目 所属するコースの2科目群のうち主科目を選択する。 主科目 8単位以上（主指導教員の開講する科目を1科目以上含む。ただし、がんプロフェッショナル養成コースは除く。） 副科目 4単位以上（主科目以外のすべての科目の履修が可能で、コースを越えてよい。） (3) 研究科目 8単位</p>						
履修科目等	<p><必修科目>医科学概論（2単位）医科学特論（2単位）希少糖科学特論（1単位）研究・生命倫理（1単位）、課題研究（8単位）</p> <p><選択必修科目・選択科目>「がんプロフェッショナル養成科目群」（主科目）共通コアカリキュラム（4単位）他4科目から8単位以上、（副科目）発達神経科学（4単位）他106科目から4単位以上、計16単位以上を修得する。</p>						
がんに関する専門資格との連携	日本がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。 日本緩和医療学会認定医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・全ゲノム解析を含む遺伝子情報を利用した個別化がん予防治療の推進。 ・従来、大学では行うことが困難をされていた治験や臨床試験への取り組みや、それに対する実務的事項の教育を進める。 ・受講者は医療従事者等社会人学生が多いため、メディア授業で受講できる環境を整える。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に研究テーマにより主指導教員を決定し、2年次に進級する際に他分野の副指導教員を決定することで、広い視野に立って研究活動を推進するのに必要な学識と技術の体系的な修得を図る。 ・e-learningで学外の教員の講義を受講して必修単位を修得できる。 						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中または修了後に専門医を取得し、勤務先での先進的がん治療を行うとともに、指導医として後進の育成を行う。 ・インテンシブセミナーを通じて知識や技術のアップデートを図り、地域のがん医療の均てん化に資する。 						
受入開始時期	令和5年度 事業開始次第						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	3	3	3	3	3	3	18
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数から毎年度2～3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻 高度医療人育成コース						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	看護師、臨床心理士、検査技師等						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療ならびに医療カウンセリングに精通したがん専門医療人 ・がん専門医との連携や医師の業務をシェア・シフトしチーム医療を推進できるがん専門医療人 ・地域に根ざし、標準的がん医療に精通したがん専門医療人 						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>大学院に4年以上在学し、当該研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p><履修方法> 次の区分により30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(1) 共通科目 6単位 (2) 専門科目 所属するコースの2科目群のうち主科目を選択する。 主科目 8単位以上（主指導教員の開講する科目を1科目以上含む。ただし、がんプロフェッショナル養成コースは除く。） 副科目 4単位以上（主科目以外のすべての科目の履修が可能で、コースを越えてよい。） (3) 研究科目 8単位</p>						
履修科目等	<p><必修科目>医科学概論（2単位）医科学特論（2単位）希少糖科学特論（1単位）研究・生命倫理（1単位）、課題研究（8単位）</p> <p><選択必修科目・選択科目>「がんプロフェッショナル養成科目群」（主科目）共通コアカリキュラム（4単位）他4科目から8単位以上、（副科目）発達神経科学（4単位）他106科目から4単位以上、計16単位以上を修得する。</p>						
がんに関する専門資格との連携	特定行為研修(看護師)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・全ゲノム解析を含む遺伝子情報を利用した個別化がん予防治療の推進。 ・従来、大学では行うことが困難をされていた治験や臨床試験への取り組みや、それに対する実務的事項の教育を進める。 ・受講者は医療従事者等社会人学生が多いため、メディア授業で受講できる環境を整える。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に研究テーマにより主指導教員を決定し、2年次に進級する際に他分野の副指導教員を決定することで、広い視野に立って研究活動を推進するのに必要な学識と技術の体系的な修得を図る。 ・e-learningで学外の教員の講義を受講して必修単位を修得できる。 						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中または修了後に専門資格を取得し、勤務先での先進的がん治療を行うとともに、指導スタッフとして後進の育成を行う。 ・インテンシブセミナーを通じて知識や技術のアップデートを図り、地域のがん医療の均てん化に資する。 						
受入開始時期	令和5年度 事業開始次第						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	香川大学大学院医学系研究科 医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん医療人共育コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	地域で活動するがん医療を担当する多職種の医療人（医師及びメディカルスタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、臨床心理士、検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、がん相談員など））						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	最新のがん治療の知識と多職種でのチーム医療に精通し、がん患者、家族及びがんと向き合う全ての人のケアを行える豊かな人間性を備えたがん専門医療人						
修了要件・履修方法	各種セミナーの受講およびがんに関する香川大学大学院e-learning講義の受講						
履修科目等	地域医療人を対象として開催する各種セミナー インテンシブコース、がんに関する香川大学大学院e-learning講義の受講						
がんに関する専門資格との連携	日本がん治療専門医認定試験に求められる外科治療、薬物療法、放射線治療などがん医療全般について、セミナーや講義を行う。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の医療スタッフがインテンシブセミナーで情報を共有し、各々の知識やスキルを使って多角的視点から問題解決を図るチーム医療スタッフの育成に努める。 ・遺伝子情報を利用した最新のがん治療に対する見識を深める機会を提供する。 ・受講者は医療従事者等社会人が多いため、メディア授業で受講できる環境を整える。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方に限らず全国からセミナー講師を招聘し、先進的がん治療の知識や情報を共有する。 ・定期的に開催するセミナーのアンケート結果を基に、セミナー参加者が必要とする講演テーマを調査し、次回開催時にはその要望を反映した講演内容を企画する。 ・がんに関する香川大学大学院e-learning講義を通して指導を行う。 ・医学部臨床心理学科と共同でのカリキュラムを有し、臨床心理士と協同での患者支援・カウンセリング等のスキルを高める。 						
修了者の進路・キャリアパス	がん患者の予後やQOL、満足度の向上が期待できる。 中国・四国地区のがん緩和医療の均てん化と質の向上が得られる。 他職種の医療人が共に学ぶことで、相互に情報交換し、他職種への理解を深め、職種を超えたチーム医療の実現に資する。						
受入開始時期	令和5年度 事業開始次第						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	10	10	10	10	10	10	60
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	コースワークにより、複数の科目（がんに関する香川大学大学院講義）を体系的に履修するもので、高度・先進的な知識・技術の修得を目的とするため、受講することができる人数を10人と設定した。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門医コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ゲノム医療を含む高度な専門知識を有するとともに、新たな治療戦略を行うことのできるがん薬物療法専門医を養成する。 ロボット支援手術やITを用いた治療を行うことのできる人材を養成する。 緩和医療とも連携して緩和的放射線治療を行える放射線治療医を養成する。 高齢者に対して、安全ながん治療を提供できる人材を養成する。 						
修了要件・履修方法	履修科目を受講し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p>【臨床腫瘍専門医分野】</p> <p>共通コアカリキュラム必修4単位、がん専門医・薬剤師共通科目必修4単位、専門科目の臨床腫瘍学演習科目必修4単位、専門科目12単位以上（必修4単位及び専門とする特論及び演習各4単位または各2単位を含むものとする）、研究演習科目必修6単位、合計30単位以上</p> <p>【放射線治療専門医分野、腫瘍専門外科医分野】</p> <p>共通コアカリキュラム必修4単位、がん専門医・薬剤師共通科目必修4単位、専門科目の臨床腫瘍学演習科目必修4単位、専門科目12単位以上（専門とする特論及び演習各6単位を含むものとする）、研究演習科目必修6単位、合計30単位以上</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。 がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。 放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ゲノム医療やロボット支援手術など最新の知見を腫瘍内科医、腫瘍外科医など高度な知識、技能を有する専門家が教育することにより次世代を担う腫瘍内科医、腫瘍外科医を養成する。						
指導体制	本学ではこれまで腫瘍内科医 放射線治療医が不足していたが腫瘍内科学講座、放射線治療学講座が新設され、専門スタッフが充実してきている。さらに附属病院で新設された緩和医療科スタッフも含めた小さくとも連携の良い体制での指導が行なえる。						
修了者の進路・キャリアパス	県内の拠点病院に勤務し、がん診療とともにメディカルスタッフの教育に従事する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	今回のがんプロの期間中に県内の3つのがん診療連携拠点病院全体にがん薬物療法専門医をあらたに最低1名、また放射線治療専門医をあらたに1名、ロボット支援手術を習得した外科医をあらたに最低1名配置することを目標に、さらに、県内の2つのがん診療連携推進病院にも人材派遣を行うことを目標に養成する。ただし、本学の過去の大学院志願者数などの実績から考え、受け入れ目標人数を毎年度2名と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師コース（正規課程）						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材の養成・地域において、がん医療に携わる薬剤師のリーダーとなりうる人材。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な専門的知識と技術を有するとともに多職種と連携し、ライフステージに応じたがん薬物治療をサポートすることができる人材。 がん治療、特にがん薬物療法に関する教育・研究マインド（基礎・臨床）を有する人材。 がん領域で要求されるより専門性の高い技術と知識、特に臨床腫瘍学、がん薬物療法学に精通し、基礎研究・臨床研究を通じて、個別化医療を推進する治療薬の創薬研究を担う人材やがん薬物療法の安全性の担保および最適化に寄与する人材。 						
修了要件・履修方法	履修科目を受講し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	共通コアカリキュラム必修4単位、がん専門医・薬剤師共通科目必修4単位、がん専門薬剤師分野専門科目必修14単位、選択科目8単位以上、合計30単位を履修すること。						
がんに関する専門資格との連携	<p>がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）の研修施設として認定。</p> <p>がん専門薬剤師および地域薬学ケア専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修施設として認定。</p> <p>外来がん治療認定薬剤師、外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）の研修施設として認定。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>既存の中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの提供するe-learningを活用し、連携大学のコンテンツの視聴し、効率的に高度な専門教育を受けるとともに、実習による実臨床を通じて知識と経験を養う。</p> <p>また、多職種が参加するキャンサーボードやカンファレンスでの発表や緩和ケアを含む多職種からなる医療チームへ参画する。さらに、ICTを活用した薬薬連携（病院薬剤師と薬局薬剤師の連携）等の地域医療に関する実習を実施し、地域医療に参画する。</p>						
指導体制	教員およびがん専門薬剤師の指導を基に研究体制を推進する。また、新設された腫瘍内科および緩和医療科を含めた医師、看護師等の多職種と連携して指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	専門資格の取得を目指しながら、がん研究および地域医療における臨床経験を積み、がん専門薬剤師としてスキルや専門性を身につける。その後は、がん専門薬剤師として地域医療における指導的立場となるべくキャリアを形成する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科						
教育プログラム・コース名	がん医療における支持療法を担う地域がん専門医療人育成コース ～がん薬物療法における支持療法と緩和ケア～（インテンシブコース）						
対象職種・分野	がん医療や緩和ケアに携わる医師、看護師、薬剤師を対象とし、医療・ケア提供の場所は問わない						
修業年限（期間）	1年（土日・祝日開講）						
養成すべき人材像	がんそのものに伴う症状や、がん薬物療法による副作用・合併症・後遺症による症状を軽くするための予防・治療・ケアについて科学的根拠に基づいた知識・技術を修得し、がん患者のQOL向上に貢献する専門医療人を育成する。 高知県においては資源の偏在化が著しく、がん患者の診療やケアに携わる医療人を育成することで、県内随所に専門的知識や技術をもつ人材を配置することができ、県内の在宅がん医療の推進への貢献および質の底上げに貢献できる人材の育成を目指していく。						
修了要件・履修方法	15回の教育プログラム内容を履修（単発参加は修了要件として認めない）し、且つ履修状況が8割以上の修了者には、本事業から修了認定証を発行する。						
履修科目等	がん医療の中でも、がん薬物療法・緩和治療について、治療的側面およびケア的側面をふまえた内容の科目設定を行う。また教育プログラムの質改善のため、PDCAサイクルによる評価を行い、毎年カリキュラム内容について見直しを行っている。 科目には講義・演習・実践演習を組み込み、知識との統合を図る。						
がんに関する専門資格との連携	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。 がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。 がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）の研修施設として認定。 がん専門薬剤師および地域薬学ケア専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修施設として認定。 外来がん治療認定薬剤師、外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、薬剤師、看護師の3職種を対象とした教育プログラムであること。 ・がん薬物療法の支持療法と緩和ケアに特化したカリキュラムを開発することで、国が目指すがん治療に伴う副作用・合併症・後遺症を軽減することへの貢献およびがん患者のQOL向上のための支持療法に関する実態把握や適切な診療やケアの実施に向けた取組への貢献ができる。 						
指導体制	当学では2021年11月に腫瘍内科学講座が開設され、専門的知識をもつ腫瘍内科医による指導体制の整備を行う。また、本プログラム進行過程において、外来化学療法センターの増設や緩和ケア病棟開設予定もあるため、より知識と実践をつなげられる内容へと洗練化できる体制が構築できる。 腫瘍内科医師・緩和医療科医師・がん専門薬剤師・がん看護専門看護師等を中心とし、新たに本コースのWG委員を選定し指導体制を確立する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了した医師・薬剤師・看護師が、各フィールドで地域がん医療における症状マネジメントの実践リーダーとなり、適切な支持療法や緩和ケアの推進者となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	9	9	9	9	9	45
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	がん診療連携拠点病院＋地域医療機関＋在宅医療からの3職種受講者を想定、高知県二次保健医療圏（中央・西・東）への修了者配置を目指したい						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知大学大学院総合人間自然科学研究科、鳥取大学医学部附属病院 放射線治療科						
教育プログラム・コース名	放射線治療・緩和的放射線治療医コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	中四国内の放射線治療専門医を目指す医師・既に放射線治療専門医を取得し、更新のための知識のアップデートを希望する医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	以下の条件を兼ね備える放射線治療専門医を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域から拠点病院において、根治から緩和までがん患者のライフステージに応じた先進的、緩和的放射線治療を速やかに提供できる医師 ・多職種で協働し、シェアード・ディシジョン・メイキングに応じて先進的、緩和的放射線治療に繋げる医師 ・各がん種におけるエビデンスに基づいた診療を実施できる医師 						
修了要件・履修方法	本教育プログラム・コースで定める計10回の集中講義について、オンライン、対面を含めて合計8回以上を履修することで修了とする。						
履修科目等	放射線治療専門医の取得・更新に必要な以下の項目に関して、計10回の集中講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・放射線物理学・放射線生物学（1回） ・粒子線治療（1回） ・核医学治療（1回） ・各がん種に対する放射線治療の実際（4回） ・緩和的放射線治療（2回） ・臨床試験の方法・医学統計（1回） 						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高度化かつ複雑化する様々ながん種の治療に対応できる放射線治療専門医を育成するため、各領域のエキスパートを招いた集中講義を行うことで、専門医取得及び更新のための最新知識のアップデートが可能となる（各集中講義の内容は年ごとにアップデート）。また、オンラインを利用して先端的な放射線治療に関する情報を多忙な医師に効率高く提供可能な生産性の高い教育を行う。						
指導体制	集中講義は各領域のエキスパートにより行う。 高知大学放射線治療科は日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）に属しており、講師として全国から第一線で活躍するエキスパートを招聘することが可能である。これにより放射線治療に関する最新知識を効率よく得ることができる。						
修了者の進路・キャリアパス	都道府県がん診療連携拠点病院及びがん診療連携拠点病院において放射線治療業務及び緩和医療の中心的役割を担う。また、地域施設在籍時においても、都道府県がん診療連携拠点病院での研修や学会参加のサポート（不在時の人的派遣など）での定期的な知識・技術のアップデートが行える環境を整えることで、地域定着を図る。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	3	3	3	3	3	15

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

より高精度化する放射線治療業務に対応するため、高知県の都道府県がん診療連携拠点病院に最低5名、2施設のがん診療連携拠点病院に最低2名の常勤放射線治療専門医をそれぞれ配置することを目標にすると、9名必要となる。また、それ以外の2つの放射線治療施設も加えると12名となる。現在の高知県内の実働するがん診療連携拠点病院における放射線治療専門医が3人であり、定年などでの減少も考慮し、今後少なくとも10名以上を養成する必要がある。また、鳥取県内での放射線治療医の充足も求められている。受入れ目標人数は放射線科専門研修プログラムコースへの毎年の新規参加者の予測数や放射線治療専門医数の現状を考慮し、この5年間で15人と設定し、一人でも多くの放射線治療専門医を育成する。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科
教育プログラム・コース名	高度実践看護師コース：がん看護学領域（正規課程）
対象職種・分野	看護学研究科博士前期課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療のなかで患者や家族のQOLの維持・向上をめざして、患者や家族および集団に対してケアとキュアの統合による高度な看護学の知識と技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、自律して卓越した看護ケアが提供できるがん高度実践看護師 ・がん医療・がん看護領域における課題を総合的に判断し、組織的な問題解決能力をもって新しい課題に挑戦し、臨床実践のみならず政策や教育の課題にも反映できる開発的役割が取れる変革者として活動できる高度実践看護師
修了要件・履修方法	看護共通科目14単位、専攻分野共通科目6単位、専攻分野専門科目8単位以上、実習10単位、高度実践看護師セミナーを履修し、最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修共通科目> ※()内の数字は単位数 看護実践と理論(2)、看護実践と研究(2)、看護倫理(2)、 看護コンサルテーション論(1)、看護サービス論(2)、 フィジカルアセスメント特論(2)、病態生理学(2)、臨床薬理学(2) 他</p> <p><必修専門科目> 専攻分野共通科目(7)：がん看護論(2)、がん看護看護方法論Ⅰ/Ⅲ(3)、 家族看護方法論Ⅰ(2)、がん病態生理学(2) 専攻分野(緩和ケア)専門科目(19)：がん診断治療学(1)、がん薬理学(1)、 緩和ケア特論(2)、がん看護方法論Ⅱ(1)、 家族看護方法論Ⅱ(2)、 <u>がん看護学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(10)</u>、 看護課題研究(2)</p> <p><選択必修科目> <u>在宅リエゾン看護論(2)</u>、<u>在宅リエゾン看護演習(1)</u></p>
がんに関する専門資格との連携	日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程がん看護専攻（38単位）の認定教育プログラム。修了後は日本看護協会のがん看護専門看護師の認定試験を受験し、合格すればがん看護専門看護師として認定される。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国のがん医療・地域医療の先を見据えて、在宅リエゾン看護を教育内容に新たに取り入れる。がん患者・家族にケアを提供している他領域の専門看護師（小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護）と共に臨床と在宅を繋ぐリエゾン看護の視点と概念を用いた看護実践について開発するプログラム。 ・講義-演習-実習においてシミュレーション教育を充実させるとともに地域での実習を通して遠隔看護モデルを開発する。 ・第Ⅰ期～第Ⅲ期のがんプロ修了生を講師とする高度実践看護師セミナーを2時間×7回開催し、高度実践看護師の役割機能についての学修を強化するプログラムとする。 ・がん医療チームにおける看護の役割責任が果たせるよう、他の職種とのチームアプローチ技術を習得できるようにする。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・特任助教（採択されれば雇用）とがん看護学領域教員が中心となり、他領域の専門看護師（小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護等）や教員と連携して指導体制を確立する。 ・医療現場と教育現場との連携を強化：病院や在宅部門と大学が連携して教育（実習など）を進め教育効果をあげる。

修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国四国地域のがん診療に関わる医療機関や在宅部門において、新たな課題解決やがんサバイバーシップケアを推進する高度実践看護師として活動 ・ 中国四国地域で生活する多様な価値観と文化をもつがんサバイバーとその家族の健康と生活の支援を牽引する地域のリーダーとして活動 						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	中国四国のがん診療拠点病院にがん高度実践看護師を複数配置することを目標にし、今後5年間で10名養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年2名程度の受け入れが見込まれる。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	高知県立大学大学院看護学研究科
教育プログラム・コース名	リカレント教育プログラム：がんサバイバーシップを支える専門性の高い看護師養成コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	高度実践看護師コース修了生、専門看護師、認定看護師
修業年限（期間）	6か月（土日開講および集中講義）
養成すべき人材像	中国四国地方の9県でがん医療・看護をリードできる人材の養成、 ①がん医療の新たなニーズや医療や介護の分野で潜在化した課題、アンメットニーズに対応できる専門性の高い看護職者。 ②増加の一途をたどるがんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアや再発予防等のがんサバイバーシップケアを強みとする看護職者。
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> 本教育プログラムで定めるコアの科目（1単位15時間）をオンラインと対面で4単位60時間以上受講する。 各受講科目すべて8割以上出席し、課題レポートを提出した受講生に認定証を授与する。
履修科目等	<p>がんサバイバーシップケアとして再発や二次性発がんの予防、長期合併症や晩期障害の管理、健康増進に向けた生活習慣の改善、特に若年発症がん患者の教育・就労・経済状況の社会的問題への対応等、複合的かつ領域横断的な課題への対応する実践能力を修得できるようにする。下線部は、焦点を当てるサバイバーシップケアを深化・変更し開講していく。</p> <p><必須科目></p> <p>がんサバイバーシップ診断治療学（1単位15時間） がんサバイバーシップ看護基盤論（1単位15時間） がんサバイバーシップ看護実践論（1単位15時間） がんサバイバーシップ看護展開論（1単位15時間）</p> <p><自己学習e-learning></p> <ul style="list-style-type: none"> CANCER e-LEARNING（一般社団法人日本癌治療学会）他
がんに関する専門資格との連携	日本看護協会がん看護専門看護師および認定看護師の認定更新審査の研修ポイントとなる
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> 本コースは、中国四国の9県（高知、徳島、香川、愛媛、岡山、広島、山口、鳥取、島根）の大学院修了生、専門看護師、認定看護師を対象とするリカレント教育プログラムのため、リモートでの双方向、リモートでのシミュレーション教育を取り入れて教育目標を達成できるように受講環境整備を行う。また、対面での長所を生かした講義展開、グループワークを取り入れる。 教育内容は、サバイバーシップケアとして課題になっているテーマについて、広く深く精選して、5年間順次取り上げる。 教育内容には、中国四国という広域、地域性を踏まえ、ICTと遠隔コミュニケーションを通じて提供できる遠隔医療・看護についても展開していく。
指導体制	特任助教（採択されれば雇用）とがん看護学領域教員が中心となり、連携大学の教員、がんプロ第I期～第III期の修了生及び他領域の教員（小児看護、老人看護、家族看護、精神看護、慢性看護、在宅看護等）と連携・協働して指導体制を整える。
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> 専門看護師、認定看護師として、がんサバイバーシップケアを推進する看護専門職者として役割を拡大する。 中国四国地方の専門看護師、認定看護師に対して、積極的な広報活動を行い、地域のがん医療・がん看護の質向上、次世代のがん医療・看護を担う。
受入開始時期	令和6年9月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	—	30	30	30	30	30	150
	中国四国の9県のがん看護専門看護師は現在（2023.3現在）109名である。リカレント教育とし、毎年各県3～4名がリカレント教育を受講することを目標とし、今後5年間で9県全体で150名の養成を目指す。また、がんプロ第Ⅲ期の大学院修了生、専門看護師、認定看護師対象のニーズ調査結果から、毎年度30名程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を30名と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	がん専門医療人育成コース（正規課程）
対象職種・分野	医科学専攻博士課程 大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん医療に関する高度な専門知識と技術を有し、多職種・多診療科と連携し、チーム医療の担い手なる人材。 ・分子標的薬やコンパニオン診断薬、ゲノム医療・遺伝子治療、免疫療法等の創薬を担うことができる人材。 ・ライフステージ（小児、AYA世代、高齢者）に応じた、がん治療を行うことができる人材。 ・腫瘍循環器学、老年腫瘍学など、がん関連学術領域にも精通する人材。 ・がん治療に関連する専門医として、地域医療の問題点を把握し、地域において標準的ながん医療を実施し、がん医療の均てん化に貢献できる人材。
修了要件・履修方法	博士課程共通科目2単位、選択必修科目3単位、選択科目25単位、合計30単位（1単位、90分相当）以上を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。対面のみならず、病院内、連携大学内のWEBシステム、e-learningシステムを活用する。
履修科目等	<p><共通科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学総合研究持論I（1単位）、医学総合研究持論II（1単位） <p>計2単位</p> <p><選択必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床腫瘍学総論（3単位） <p>計3単位</p> <p><選択科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん地域医療学（5単位） ・基礎腫瘍学（5単位） ・臨床腫瘍学各論I（5単位、実習を含む） ・臨床腫瘍学各論II（5単位、実習を含む） ・緩和医療学（5単位、実数を含む） <p>他選択科目から5科目を選択、計25単位 合計30単位以上（1単位、90分相当）を履修する</p>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医、腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会、日本専門医機構）の研修施設（基幹病院）として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん治療に関する臓器横断的、職種横断的（専門領域、外科/内科/その他など）な教育を目指す。標準的ながん治療の実践のみならず、新たな治療法の開発を担う人材を養成する。痛みの治療・ケアを含む全人的医療が行える専門医を育成し、特に、ライフステージに応じた、又、地域においてがん医療を担う専門家教育に力を入れる。
指導体制	臨床腫瘍学の共通コアカリキュラムを設定する。その後、内科系、外科系、その他の専門領域を目指す大学院生に対して、高度な知識と技能の経験を積める。医学博士の取得と同時に、がんに関連するサブスペシャリティ専門医の取得を可能とする。がん実地臨床における、多職種・多診療科連携、チーム医療の核となる人材育成を目標として、狭い専門領域に限定することなく幅広い知識の習得を可能とする。連携大学間の共通教育ツール（e-learning）を最大限に活用する。特に、島根大学は、がんゲノム医療、腫瘍循環器学、老年腫瘍学に専門的研究を行っており、それを活かした指導体制を構築する。

修了者の進路・キャリアパス	各領域において高い専門性を持つ当該コース修了者は、卒業後、がんに関連するサブスペシャリティ専門医を取得し、県、及び、地域がん拠点病院に就職し、地域のがん医療の中心的な担い手となる。又、在学中に築いた人的ネットワークは、地域がん診療連携の基盤となる。						
受入開始時期	令和5年7月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	島根県内の5つのがん拠点病院にがん薬物療法専門医を最低1～3人ずつ配置することを目標にすると、島根県内のがん薬物療法専門医数が13人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定した。						
	1	1	1	1	1	1	6

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	山陰地域がん専門医療スタッフ育成コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	山陰地域でがん医療に携わる医療従事者（医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、認定遺伝カウンセラーなど）
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん治療における多職種、多診療科連携が可能ながん専門医療スタッフ ・地域に定着する放射線治療医や病理診断医、及び、がん専門医療スタッフ ・CAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法に精通したがん専門医療スタッフ ・腫瘍循環器学、老年腫瘍学など、がん関連学術領域に精通するがん専門医療スタッフ ・集学的な痛みの治療・ケアを担う専門医療スタッフ ・遺伝専門医・遺伝専門看護師、遺伝カウンセラーなどゲノム医療、遺伝子治療に関わるがん専門医療スタッフ ・がん患者及びがんサバイバーに対する身体的・精神的ケア、就労支援、生活支援、再発予防などを担うがん専門医療スタッフ
修了要件・履修方法	1年間にわたる定期的な公開講座形式の講義とセミナーの履修、及び、年に2回程度開催する集中セミナーを受講し、合計30単位以上の履修を修了要件とする。様々な職種の受講を可能とするため、オンデマンド形式、WEB形式、e-learning形式などの講義方法や、連携大学間の共通教育ツールやネットワークを最大限に活用する。
履修科目等	<p><公開講座形式の講義、セミナー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2単位（60～90分講義） x 10回 / 1年間、計20単位 <p>オンデマンド、WEBなどe-learningなどのコンテンツを用いた履修可能</p> <p><山陰地域を対象とした集中セミナー></p> <p>1～2日間の集中セミナー 2回程度 / 1年間開催、1回につき10単位</p> <p>合計30単位以上を履修する。対面のみならず、病院内、連携大学内のWEBシステム、e-learningシステムを活用する。</p>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医、腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会、日本専門医機構）、がん治療認定医（日本がん治療認定機構）、放射線治療専門医（日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会）、病理専門医（日本病理学会）、がん専門看護師（日本看護協会）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、認定遺伝カウンセラー（日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会）など
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	多職種にわたるがん専門医療スタッフに必要な知識を向上させる。特に、腫瘍循環器学や老年腫瘍学など、昨今のがん関連学術領域に関連する内容を組み込む。CAR-T療法や免疫チェックポイント阻害剤などの治療に実際に関わっている医師や医療スタッフから、専門的な知識と経験を学べる。又、遺伝子治療やゲノム医療に必要な知識を学べる。一方、地域がん医療における治療の標準化に関する問題点を明らかにし、実践に役立つ教育を目指す。
指導体制	がん実地臨床における、多職種・多診療科連携、チーム医療の核となる人材育成を目標として、狭い専門領域に限定することなく幅広い知識の習得を可能とする。連携大学間の共通教育ツール（e-learning）を最大限に活用する。島根大学は、国内でも限られたCAR-T療法が実施可能な専門施設であり、免疫チェックポイント阻害薬の治療や有害事象マネジメントに精通したスタッフが多い。又、腫瘍循環器学、老年腫瘍学などの専門的な研究者が多い。地域における拠点病院の特色、問題点を把握しており、地域に定着する放射線治療医や病理診断医の育成に秀でている。

修了者の進路・ キャリアパス	<p>地域に包括的にがん患者に関わる医療者が本インテンシブコースで学ぶことにより、より専門的な知識と技術を修得し、又、他領域の知識は、チーム医療に役立つ。既に、医学博士を取得している医師は、がんに関する専門医、認定医の取得が可能となる。又、がん専門看護師、がん専門薬剤師、認定遺伝カウンセラーなどの資格取得に繋がる。がん拠点病院で専門性をもって働く人材を育成する。</p>						
受入開始時期	<p>令和5年10月</p>						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	<p>1年に1～2回予定する集中講義のみならず、1年にわたり継続的に行われる公開講座を重要視する。既に、各医療機関で、がん医療に携わっている方が受講できるように、オンデマンド、WEBシステム、e-learningなどを用いる。多職種にわたるため、1年間に約10名程度のニーズがあると考え受け入れ目標を設定した。</p>						
	<p>5</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>55</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学大学院医学系研究科、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科、香川大学大学院医学系研究科、鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科
教育プログラム・コース名	遺伝情報に基づく、ぬくもりのあるがん医療実践者を育成するコース（インテンシブコース）
対象職種・分野	医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、がん専門相談員、MSW、認定遺伝カウンセラー、その他がんゲノム医療・遺伝医療に興味を持っている医療人
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍遺伝学を理解し、最先端かつ適切ながん治療・予防医療について多職種で考え実践することのできる人材を育成する ・全ゲノム時代に対応できる人材を育成する ・ライフステージを理解し、患者・家族の問題を捉え統合的な支援ができる人材を育成する ・医療人としての質の高いコミュニケーションスキルを持ち、患者・家族の意思決定支援が実践できる人材を育成する
修了要件・履修方法	本コースのOn-the-job training、症例検討会、遺伝カウンセリング陪席実習、セミナー、ロールプレイング研修を受講する。
履修科目等	<p>年間20単位以上取得したのものには修了証を発行。1は6単位、2は2単位以上取得することとする。</p> <p>1. On-the-Job Training （テーマ 施設 単位/回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝性腫瘍エキスパートパネル 岡山大学 1 2. がんゲノム医療エキスパートパネル 4大学 1 3. 遺伝性腫瘍に関するカンファレンス（成人）※1単位以上 4大学 1 4. 遺伝性腫瘍に関するカンファレンス（小児・AYA）※1単位以上 4大学 1 5. 遺伝カウンセリング陪席実習 ※2単位以上 4大学 1 6. がんゲノム医療陪席実習 ※2単位以上 4大学 1 7. がん患者・家族相談支援研修（講義・実習） 島根・香川大学 1 8. 遺伝倫理・ライフサイクルカンファレンス 島根・香川大学 1 9. 全ゲノムシーケンスを含むゲノムデータ解析研修（講義・演習） 鳥取大学 1 <p>2. 関連セミナー、ロールプレイング等 （テーマ 施設 単位/回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連セミナーあるいはシンポジウムへ参加 関連施設 1 2. 遺伝性腫瘍症例検討会：「結果の解析やサーベイランス」「ライフステージ」「心理・社会的支援」のいずれかのテーマで症例提示 島根大学開催 2 3. 各施設の遺伝性腫瘍体制強化についてワークショップの開催 web開催 2 4. 「コミュニケーション」「意思（志）決定支援」講義とロールプレイングの実施 島根大学開催 2 5. 市民公開講座への参画 関連施設 2 6. キャリア形成支援セミナーへ参加 web開催 1 <p>3. 学会発表及び臨床研究の主導 （テーマ 単位/回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国規模の学会での成果公表 5 2. 地域での学会、研究会などでの成果公表 2 3. 臨床研究の主導 10
がんに関する専門資格との連携	中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム認定「中四国遺伝性腫瘍アドバイザー（仮）」修了証発行

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	各職種の専門性と多職種連携について高い水準で習得できるよう、各職種の専門家を講師として配置する。 医学的問題のみならずライフステージや心理・社会的背景を理解し、継続的な支援体制を構築できるぬくもりのある医療人を育成する。 実践で活用できるよう、現場研修を取り入れる。 臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医、遺伝看護専門看護師、認定遺伝カウンセラー等の資格取得、進学						
指導体制	4大学共同で遺伝性腫瘍診療の専門家が、中国・四国の広域医療圏における、遺伝情報に基づくがん医療の実践者を育成することを目指す。田村研治、鬼形和道、鞍嶋有紀、今岡佐織、荒木もも子（島根大学）、平沢 晃、山本英喜、深野智華（岡山大学）、隈元謙介、花岡有為子、鶴田智彦、田中圭紀（香川大学）、粟野宏之、足立香織、甲斐政親、岡崎哲也、野中智生（鳥取大学）、4大学は、これまで、 <u>遺伝性腫瘍、ゲノム医療について、協力、情報共有してきた。このことにより、専門性において、それぞれの大学の強みを活かし、不足なところを補うことで、より包括的な教育体制を構築できる。</u>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム・遺伝性腫瘍の医療において施設内の推進者となることが期待される ・臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医、遺伝看護専門看護師、認定遺伝カウンセラー、ゲノムメディカルリサーチコーディネーター（GMRC）、遺伝性腫瘍コーディネーター、家族性腫瘍カウンセラー等の資格取得、進学の契機とする 						
受入開始時期	令和5年7月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	4大学連携のインテンシブコースは初の試みであるが、中国・四国医療圏では潜在的ニーズは高いと考えられることから設定数の根拠とした。						
	5	5	5	5	5	5	30

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)コース(正規課程)
対象職種・分野	医師
修業年限(期間)	4年
養成すべき人材像	<u>免疫チェックポイント阻害剤を含む最新のがん薬物療法を行う知識</u> に加え、 <u>腫瘍循環器病学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学などの幅広いがん治療の知識を有する専門医</u> を育成する。また、がん遺伝子パネル検査の導入により変わりつつある「 <u>遺伝子異常に基づいた個別化治療</u> 」を実践できる専門医を育成する。さらに、 <u>マルチオミックス解析を応用したコンパニオン診断、AI技術を駆使した画像診断やがんのリスク評価(再発予防)</u> など、これからのがん医療人にふさわしい専門医の育成を目指す。
修了要件・履修方法	共通コアカリキュラム4単位、がん専門医共通科目4単位、腫瘍内科専門医科目22単位を履修する。また、この期間に行った研究を英語論文として発表し、学位審査を受ける。
履修科目等	<p><必修科目> 共通コアカリキュラム(4単位): <u>老年腫瘍学の講義を新たに加えた</u>。希少がん、小児がん、AYA世代がん、ゲノム医学の講義を含んでいる。実習0.5単位を含む。 がん専門医共通科目(4単位): <u>新たに腫瘍循環器病学及び腫瘍腎臓病学の講義を加えた</u>。</p> <p><選択科目> 専門医科目(12単位): <u>新たにマルチオミックス解析やゲノム医療の講義を加えた</u>。 演習科目(10単位): <u>AI技術を応用した画像診断、がん再発リスク評価の演習を新たに加えた</u>。</p>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	本プログラムの特色は、免疫療法を含む最新のがん薬物療法に加え、最近注目されている腫瘍循環器病学や腫瘍腎臓病学などについて幅広く学ぶことである。また、高齢化が進む本邦において重要視される「高齢者に対する腫瘍学:老年腫瘍学」に関する講義が多く含まれている。さらに、最近のゲノム医療の普及とともに注目されるマルチオミックス解析を応用したコンパニオン診断、AI技術を駆使した画像診断やがんのリスク評価(再発予防)など、将来のがん医療人としてふさわしい内容が多数含まれている。
指導体制	高山哲治(消化器内科学、腫瘍内科学)、滝沢宏光(呼吸器外科)、西岡安彦(呼吸器膠原病内科)、岩佐武(産婦人科)、高橋正幸(泌尿器科)、西良浩一(整形外科)、渡辺浩良(小児科)、三木浩和(血液内科)、 <u>新たに就任した遺伝情報学森野豊之(教授)が新たに遺伝情報医学の講義を担当</u> 。
修了者の進路・キャリアパス	本プログラムの修了者は、徳島県や他県の地域がん拠点病院に勤務し、地域におけるがん治療、とくに希少がん、小児がん、AYA世代がんの治療、高齢者がんの治療、などを実践する。また、徳島県のがん拠点病院等に勤務し、上記に加え、がんの遺伝子異常に基づいた個別化治療を推進する。さらに、がんプロコンソーシアム、国内または国際的な臨床試験に参加し、がん治療のエビデンスを構築する。
受入開始時期	令和5年10月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	2	3	3	3	3	3	17
	徳島県内の5つのがん拠点病院にがん薬物療法専門医を最低3人ずつ配置することを目標にすると、県内の専門医数が10人のため今後6年間で17人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を令和6年度以降3人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍外科学コース (Surgical Oncology Course) (正規課程)
対象職種・分野	医師
修業年限(期間)	4年
養成すべき人材像	がん薬物治療の進歩とがん外科治療の低侵襲化や、患者人口の高齢化に伴い、より個別化した治療戦略が必要となったがん治療に対応できる腫瘍外科医を養成する。免疫チェックポイント阻害薬を含む薬物及び放射線による術前治療を計画・管理し、手術適応を適切に判断でき、術前の患者と腫瘍の状態に応じた手術アプローチや至適切除範囲を決定し手術を遂行できる人材を養成する。領域横断的連携、地域連携ができる
修了要件・履修方法	共通コアカリキュラム4単位(老年腫瘍学を含む)、がん専門医共通科目4単位(腫瘍循環器病学・腫瘍腎臓病学を含む)、腫瘍内科専門医科目22単位(マルチオミックス解析やAIリスク評価を含む)を履修する。また、この期間に行った研究を英語論文として発表し、学位審査を受ける。
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>共通コアカリキュラム(4単位)：新たに老年腫瘍学の講義を加えた。また、希少がん、AYA世代がん、ゲノム医学の講義を含む。実習0.5単位を含む。</p> <p>がん専門医共通科目(4単位)：新たに腫瘍循環器病学及び腫瘍腎臓病学の講義を加えた。</p> <p><選択科目></p> <p>専門医科目(12単位)：マルチオミックス解析やゲノム医療を新たに加えた。</p> <p>演習科目(10単位)：AI技術を応用した画像診断、がん再発リスク評価の講義を新たに加えた。</p>
がんに関する専門資格との連携	がん治療専門医(日本がん治療学会)の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	本プログラムの特色は、充実したトレーニング施設を活用した手術トレーニングを積むとともに、進化する周術期治療や集学的治療に対応するための最新の薬物・放射線治療について学ぶことができる点にある。本学が有するスキルラボ、動物実験施設、クリニカルアナトミーラボを活用し、低侵襲手術や高度な技術を要する拡大手術まで、ベーシックトレーニングから実臨床での手術に至るシームレスなトレーニングを実施する。また腫瘍外科医として習熟すべき最新の薬物治療や放射線治療、高齢者がん治療について学ぶ講義が充実している。また、多様な患者に対応し、治療の進歩とともに変化するがん治療戦略や至適切除範囲などを、ゲノムやビッグデータ解析に基づき決定できる人材育成も目標としている。
指導体制	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学病院ならびに地域のがん拠点病院の医師による直接指導(動物実験施設、クリニカルアナトミーラボを活用) 2. 中国四国がんプロコンソーシアム内の講師によるセミナーや手術指導 3. 国内外のエキスパートによるセミナーや手術指導
修了者の進路・キャリアパス	コース期間中にごがん治療専門医を取得するとともに、サブスペシャリティ領域専門医の最短取得を目指す。コース修了後のキャリアパスは各診療科によるが、国内外の留学を経て、大学において助教、准教授、教授などの指導者になることも可能である。がん拠点病院において地域のがん治療の中核を担う立場となり後進の指導にあたる。さらに、がんプロコンソーシアム、国内または国際的な臨床試験に参加し、がん治療のエビデンスを構築する。
受入開始時期	令和5年10月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	1	2	2	2	2	2	11
	徳島県内の5つのがん拠点病院に勤務するがん治療に関与する診療科（消化器外科、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科）の外科専門医全員のがん治療専門医取得を目標とする。現在、年2名程度が前述の条件に合致するため、受け入れ目標人数を令和6年度以降年2名と設定した。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍放射線医学コース (Clinical Oncology-radiotherapy) (正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	がん診療の均てん化のために、放射線診療を担う高度専門医療人の養成が求められている。緩和医療でも、外部放射線治療と核医学治療は重要な役割を果たしており、それを実施するためには高度な専門知識と技術が必要である。本コースでは、がんチーム医療の中で高精度外部放射線治療、粒子線治療、密封小線源治療、核医学治療を担う放射線治療専門医、放射線診断専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計30単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p>必須科目 新たに老年腫瘍学の講義を加えた。研究方法論応用1単位、悪性腫瘍の管理と治療1単位、他4科目(2単位)</p> <p>選択科目 主要演習科目4単位：新たに腫瘍循環器病学及び腫瘍腎臓病学の講義を加えた 専門科目12単位：マルチオミック解析やゲノム医療を新たに加えた 研究演習6単位：AI技術を応用した画像診断、がん再発リスク評価の講義を新たに加えた。</p>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医、放射線診断専門医(日本医学放射線学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	地方では放射線治療医が非常に少ない。そのため、社会人大学院生として講義の大部分をe-learningで学習できるようにする。また、実習では下記のように 豊富な指導教官が地元の大学病院や基幹病院において比較的数少ない大学院生に直接丁寧な研究指導や教育を行う ことが可能であり、地域に定着する放射線治療医の育成を行う。						
指導体制	放射線治療に関しては、生島仁史教授、川中 崇講師、久保亜貴子講師が、放射線診断に関しては、原田雅史教授、新家崇義特任教授、音見庸一講師が担当する。						
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療専門医、放射線診断専門医、核医学専門医、IVR専門医、がん治療認定医等を取得し、高度専門職として診療、研究、教育を行う。						
受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠	徳島県内の5つのがん拠点病院に放射線治療専門医が最低1人ずつ配置され、かつ年間放射線治療患者数200人あたり1人となることが望ましい。これを目標とすると、現在の徳島県の放射線治療専門医数は3人不足している。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から1人/1年の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を6人/6年とした。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院薬学研究科						
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍薬剤師コース (Clinical Oncology-Pharmacist) (正規課程)						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	がん領域で要求されるより 専門性の高い技術と知識、特に臨床腫瘍学、がん薬物療法学に精通し、多職種連携を推進し、がん薬物療法の安全性の担保と最適化に寄与する人材。 がん薬物治療の現場で生じる多様な問題に薬学的視点から対応できる研究実践能力と危機管理能力を有し、教育と研究に貢献できる人材。さらに、 遺伝子治療薬等、がん治療薬開発にも寄与できる、創薬研究能力を有する人材。						
修了要件・履修方法	必修科目20単位、選択科目10単位以上履修することに加え、査読のある雑誌に投稿、受理された後に大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより博士号が授与される。						
履修科目等	<必修科目> 共通コアカリキュラム(2単位)： 新たに老年腫瘍学の講義を加えた 、専門科目(18単位)： 新たに腫瘍循環器病学及び腫瘍腎臓病学の講義を加えた 、計20単位 <選択科目> 共通カリキュラム科目から2単位以上、専門科目から8単位以上選択する。 <アドバンスド科目> がん緩和医療、がん治療各論、臓器別がん治療各論等、卒業要件には含まれないががん専門薬剤師履修コースに有用な科目の履修を推奨する。						
がんに関する専門資格との連携	薬学専攻(博士課程)の中に、がん専門薬剤師履修コースを設置する。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	入学条件として薬剤師免許を求める。多くは地域の大学病院や基幹施設に勤務する社会人大学院生を想定しており、授業の大部分はe-learningで単位取得可能である。また、大学院生の数に比べて明らかに教員数が豊富であり、地域の大学病院や機関施設にて充実した実習、研究指導、論文記載の指導を受けることができる。卒業要件として査読のある英文誌の投稿・受理を含めており、がん薬物治療分野の研究能力を有する臨床腫瘍薬剤師を養成する。						
指導体制	大学院生1名につき、 主指導教員1名、副指導教員2名を定め(複数指導体制) 、研究・教育の内容が偏らないように配慮している。						
修了者の進路・キャリアパス	現行のがん専門薬剤師の認定制度では「がん薬物療法に関する5年以上の履修歴」が要件となっていることから本コース在籍中の取得は困難であるが、他の認定要件であるがん関連講演会・講習会への参加、およびがん関連論文作成を通じて、卒業後のスムーズな資格取得をサポートする。						
受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠	がん患者の薬物療法などで病院と密な連携を行う薬局として専門医療機関連携薬局が2021年8月に始まり、厚生労働省では二次医療圏に少なくとも1薬局の設置を目標としており、徳島県では6薬局が必要とされている(現在1薬局)こと、また、これまでの入学実績を踏まえ、受入れ目標人数を設定した。なお、徳島大学薬学部では令和9年度に大学院の改組・設置を行うため、受入目標人数については変更する可能性がある。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院保健科学研究科
教育プログラム・コース名	高度実践がん看護学コース（正規課程）
対象職種・分野	看護師
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	現在の教育目標であるケアとキュアを統合した看護実践力の育成に加えて、 がん予防を推進し、がん治療・療養過程にある人々のQOL向上のための統合的継続支援ができる人材養成をめざす。特に、<u>遺伝医療</u>をとりまく複雑な問題にがん患者の意思決定支援やQOLの維持に高い判断力や組織的な問題解決力を持った人材を育成する。また、<u>がんサバイバー</u>に対する社会的役割が拡大できるようにがんリハビリテーションを促進し その人らしい日常性構築に向けてエンパワーできる支援力を持った人材を育成する。
修了要件・履修方法	必修科目34単位と選択科目8単位以上の合計42単位以上を履修し、修士論文学位審査に合格すること。社会人学生も履修できるよう夜間授業を開講し、長期履修制度の活用により、仕事との両立ができるよう支援する。
履修科目等	<p><必修科目>ヘルスアセスメント特論（2単位）、病態生理学特論（2単位）、臨床薬理学特論（2単位）、臨床腫瘍学特論（2単位）、ストレス緩和ケア看護学特論Ⅰ（2単位）、ストレス緩和ケア看護学特論Ⅱ（2単位）、がん看護学特論Ⅰ（2単位）、がん看護学特論Ⅱ（2単位）、がん看護学演習（4単位）、がん看護学実習Ⅰ（3単位）、がん看護学実習Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅲ（3単位）、がん治療援助論実習（2単位）、特別課題研究（4単位）</p> <p><選択科目>看護教育学（2単位）、看護管理学（2単位）、看護研究方法論（2単位）、コンサルテーション論（2単位）、看護倫理（2単位）</p> <p><講演会・研修会>国際的ながんリハビリテーションを行うマッコーリー大学の教授によるリンパ浮腫に関する中四国の各大学の合同セミナーを実施する。また、がんリハビリテーションおよび遺伝がん看護に関する講演会の企画する</p>
がんに関する専門資格との連携	看護協会認定のがん看護専門看護師の受験資格。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本教育内容は、がん薬物療法とがんリハビリテーションをサブスペシャリティとして講義展開をしており、薬物療法時に関係性が深いがんゲノム医療／遺伝医療に伴う意思決定支援や倫理調整、がんサバイバーシップケアを推進するための予防医療を考慮した支援を牽引できる人材養成をめざしていく点が特徴である。
指導体制	がん看護学を専門領域とする教授1名、准教授1名、助教1名、および呼吸器外科学を専門とする教授1名による専任教員に加えて、非常勤（がん看護専門看護師20名、がん診断・治療を専門とする医師5名、薬理学教授1名、理学・作業療法士各1名等により指導体制を形成する。実習は、がん専門病院およびがん診療連携拠点病院で行う。なお専門領域の教授は徳島大学病院にて遺伝カウンセリングを実施し、日本遺伝性腫瘍学会、日本遺伝看護学会、日本カウンセリング学会において評議員、編集委員などの役割を担っており、最新の遺伝医療の動向や情報を講義に反映できる。
修了者の進路・キャリアパス	本教育プログラム修了者は、がん看護専門看護師の資格認定を受けた後、がん専門病院やがん診療連携拠点病院を中心にがん看護専門看護師として勤務するとともに、施設内外の教育活動を通してがん看護の質向上に寄与する。また、実習指導者や非常勤講師として大学院におけるがん看護専門看護師の育成に当たる。
受入開始時期	令和5年10月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	1	1	1	1	1	1	6
	<p>現在、徳島県内の4つのがん拠点病院にがん看護専門看護師がいない施設もあるため、最低1人ずつ配置することを目標とする。また、徳島県下のがん専門看護師数が14名であるが1期生の退職時期にも差し掛かるため、今後15名以下にならぬように勘案すると、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から、毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を6人と設定。</p>						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院医科栄養学研究科
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍栄養学コース（博士前期課程・博士後期課程）
対象職種・分野	がん病態栄養専門管理栄養士・臨床腫瘍栄養学
修業年限（期間）	博士前期課程2年、博士後期課程3年
養成すべき人材像	本コースは、 全国で唯一のがん専門の管理栄養士養成を目指す大学院の教育課程 である。臨床腫瘍栄養学に精通すると共に研究者の視点を持ってがん患者の栄養管理に取り組むだけでなく、次世代のがん病態栄養専門管理栄養士の育成、臨床腫瘍栄養学における諸問題の解決、 がん予防栄養学を推進できる医療教育・研究者 を育成する。海外の施設で高度な臨床腫瘍学を学び国際的に活躍できる人材を育成する。
修了要件・履修方法	<p>【博士前期課程】全専攻系共通カリキュラム科目4単位、臨床腫瘍栄養学専門科目18単位、臨床腫瘍栄養学研究演習12単位の合計34単位を履修し、2年間の博士前期課程を修了する。博士前期課程で行った研究を論文にまとめ、大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより修士（栄養学）の学位が授与される。</p> <p>【博士後期課程】全専攻系共通カリキュラム科目4単位、臨床腫瘍栄養学専門科目12単位、臨床腫瘍栄養学研究演習16単位の合計32単位を履修し、4年間の博士後期課程を修了する。博士後期課程で行った研究を英語論文にまとめ国際誌にて公表した後、大学院が行う学位審査を受け、これに合格することにより博士（栄養学）の学位が授与される。</p>
履修科目等	<p>【博士前期課程】 必須科目 臨床腫瘍栄養学2単位(がん予防の講義)、臨床腫瘍栄養学各論2単位、臨床栄養学概論2単位(循環器、腎臓病、老年疾患の講義)、健康科学特論2単位、人間栄養学特2単位 選択科目 共通コアカリキュラム科目4単位(老年腫瘍学)、臨床腫瘍栄養学専門科目（がん栄養学演習など）8単位、がん栄養学研究演習12単位</p> <p>【博士後期課程】 必須科目 腫瘍制御栄養学1単位(がん予防の講義)、腫瘍栄養学各論2単位、他5科目（11単位）、共通コアカリキュラム科目4単位(老年腫瘍学) 選択科目 臨床腫瘍栄養学専門科目8単位、臨床腫瘍栄養学研究演習8単位</p>
がんに関する専門資格との連携	がん病態栄養専門管理栄養士取得に係る単位に認定
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	博士前期課程の「臨床腫瘍栄養学」および博士後期課程の「腫瘍制御栄養学」においてが食生活の改善によるがん予防に関する最新の講義を行う。「臨床栄養学概論」において循環器、腎臓病、老年疾患について講義を行い、腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学などの学際領域における栄養管理の講義を行う。e-learningを活用することにより、社会人大学院生でも必要な科目を履修できる。キャンサーボードなどの実習および演習を通じがんチーム医療の実践について習得できる。修士論文ならびに博士論文の作成を通じて研究者としての素養を修得させる。
指導体制	徳島大学大学院医歯薬学研究部教員、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム教員など。徳島大学大学院医歯薬学研究部には、 がん病態栄養専門管理栄養士の資格をもつ教員など臨床栄養学・代謝栄養学の専門教員に加え、臨床医学、臨床薬学の教員と連携して教育できる体制が構築されている。
修了者の進路・キャリアパス	がん診療拠点病院への就職を推奨するとともに、がん病態栄養専門管理栄養士の資格取得を目指す。将来は、地域のがん診療において専門的な立場で指導できる人材やがん予防のための食生活改善の推進する人材として活躍してもらうほか、管理栄養士養成施設の教員として次世代の人材育成に取り組んでもらう。

受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	前期3名、 後期1名	前期5名、 後期2名	前期5名、 後期2名	前期5名、 後期2名	前期5名、 後期2名	前期5名、 後期2名	前期28 名、後期 11名
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	<p>がん病態栄養専門管理栄養士のニーズは高いものの、学会における人材養成が不足しており、全国で唯一の臨床腫瘍栄養学コースを設置している本学への期待は大きい。しかしながら、医科栄養学研究科の博士前期課程の定員は22名、博士後期課程の定員は9名である。各課程には、臨床腫瘍栄養学コースのほか、人間栄養学コース、臨床栄養学コース、宇宙栄養学コースがあることから、臨床腫瘍栄養学コースとしての受入人数は、令和6年度以降、博士前期課程5名、博士後期課程2名を目標とする。</p>						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	徳島大学大学院保健科学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理学コース（正規課程）
対象職種・分野	医学物理士・放射線診断/核医学/放射線治療分野
修業年限（期間）	博士前期課程2年
養成すべき人材像	緩和的放射線治療・核医学治療を含めたがんの放射線治療技術に精通し、これに関連する医学物理学分野の専門知識を持ち、地域に定着する医学物理士を養成する。また、機械学習・人工知能、コンピュータ・サイエンスの専門知識・技術に精通し、次世代のがん予防のための画像診断(検診)に貢献できる医学物理士。
修了要件・履修方法	博士前期課程において、選択科目として全専攻系共通カリキュラム4単位、専門科目14単位以上を履修させ、必修科目は医用情報科学特別研究12単位とし、特別研究を修士論文にまとめ、学位を取得させる。
履修科目等	<p><必修科目> 医用情報科学特別研究（12単位）</p> <p><選択科目> イ) 全専攻系共通カリキュラム科目、各専攻系間の共通カリキュラム科目及び保健学専攻共通科目から3科目6単位以上を履修すること。 ロ) 指導教員の担当する専門科目から2科目6単位（講義2単位、演習4単位）以上を履修すること。 ハ) 他)の専門科目（講義）から3科目6単位以上を履修すること。 ニ) 原則として特別研究以外の授業科目については1年次に履修し、特別研究は1年次（後期）及び2年次に履修すること。 ホ) 医学物理学コースを履修する者は、全専攻系共通カリキュラム科目から研究法論、悪性腫瘍の管理と治療、医療情報学及び医療倫理と法律的・経済的問題を履修し、かつ、保健学専攻共通科目から臨床腫瘍学概論を履修すること。本科目については育成すべき人材像に照らし合わせて内容を発展させる。</p>
がんに関する専門資格との連携	医学物理士（医学物理士認定機構）の教育コースとして認定（2019年度より）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	共通科目のみならず専門科目にもe-ラーニングを活用することにより、科目の履修を容易とする。機械学習・人工知能、コンピュータ・サイエンスと融合した放射線診断・治療に関するカリキュラムを充実させる。大学間、多職種医療人との交流によりチーム医療の実践について習得させる。次世代のがん予防に重要な役割を果たすcomputer-aided diagnosis (CAD)について学習させる。CERN(ヨーロッパ原子核研究機構)や原子力研究機構など国内外大学・組織と連携して粒子線治療に関する物理教育、また、量子コンピュータの医療応用等次世代の医療を切り拓く人材育成を一早く取り入れる。
指導体制	徳島大学大学院保健科学研究科の複数教員及び関連する共同研究機関の教員、コンソーシアム内の同一コース設定大学間での共同指導体制。国内外の医学物理共同研究ネットワークを活かした研修体制。
修了者の進路・キャリアパス	修士修了後、博士課程への進学もしくは総合病院に勤務し、専門職認定資格取得後、専門技術者として医療機関(地域の拠点病院など)に勤務もしくは教育・研究者として大学その他研究所・医療機器メーカーなどに勤務する。
受入開始時期	令和5年10月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	5	10	10	10	10	10	55
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	<p>欧米と比して医学物理士の数は全く足りておらず、さらに近年では核医学治療における医学物理士育成、AI技術の医療への普及における人材育成の要望も高まっている背景がある。放射線治療施設につき1名の不足と試算すると、なお千人規模の不足がある。医学物理士教育コースは本学を含め全国に約20教育施設がある。そのため、令和6年度以降、本学において最低10名/年の育成目標を掲げ、本期間で50名以上の人材育成を目指す。実際に、当学では最近3年間に23名の入学者がおり、本学コースの大学院志願者数は上記教育コースでは全国トップである。</p>						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鳥取大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍専門医コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科医学専攻博士課程 大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	最新のがん薬物療法、がんゲノム医療、放射線治療、外科手術、がん免疫療法の習得だけでなく、緩和ケア・在宅医療まで細やかに対応できる包括的がん医療の担い手となる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	系統講義コース6単位以上、トレーニングコース22単位以上、アドバンスドコース2単位以上、計30単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目>系統講義コース科目：臨床腫瘍学総論(2単位)、トレーニングコース科目：患者支援I(SDM(共同意思決定)など)(3単位)、患者支援II(緩和ケア診療/在宅医療など)(3単位)、特別研究(10単位)</p> <p><選択科目>系統講義コース：病理学特論(2単位)、放射線治療学特論(2単位)、緩和ケア特論、がんゲノム医療特論など(各2単位)、トレーニングコース科目：緩和ケア、放射線治療など(各6単位)、アドバンスドコース科目：交流セミナー(2単位)、がんプロ合同セミナー(2単位)、国際学会発表(1単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん治療認定医、がん薬物療法専門医、外科専門医、消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、緩和医療専門医、放射線治療専門医など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	SDM(共同意思決定)や緩和ケアに関する必修科目(患者支援I/II)を設定する（新規性・独創性）。最新がん医療から緩和ケアまで包括的ながん医療を構築・活用できる人材の育成は、がん診療の発展に大きく貢献することができる。						
指導体制	臨床腫瘍学総論、患者支援I・IIはがんセンター教育部門長が講義と実習を立案し担当教官を決定する。実習には附属病院の強みである多職種多診療科による充実した臓器横断的カンファレンス（骨転移がんセンターボード、緩和ケアカンファレンス、irAEカンファレンス等）への参加が含まれており、包括的ながん医療の担い手となる人材の育成を目指す。特別研究(学位論文)は大学院生の担当教授が指導する。その他の必修・選択系統講義、選択トレーニングは各コースの担当教授が講義と実習を立案し担当教官を決定する。						
修了者の進路・キャリアパス	各種領域別専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医、緩和医療専門医などの資格を取得した上で、県内の各がん診療拠点病院への人材充足を目指す。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	がん看護専門看護師コース（正規課程）
対象職種・分野	看護師
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	がんと診断された時から亡くなられた後まで、がん患者とその家族に対して卓越した看護を提供できるがん専門看護師を養成する。がん診療の飛躍的な発展による治療成績の向上に伴い、がんとともに生きていく期間が長くなり、様々な生活の場でより良い日常生活を営む権利を保障することが重要視されている。そのような中で、社会生活の維持を見据えたアピアランス支援、在宅での食支援をはじめとする生活支援、診断時からの緩和ケアなど専門的ながん看護を提供できる看護師を養成する。
修了要件・履修方法	・必修科目53単位以上を履修し、論文審査に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目>基礎医科学概論（1単位）、実用解剖学特論（1単位）、実用生理学特論（1単位）、薬理学薬物療法特論（1単位）、医療倫理学特論（1単位）、医療安全学特論（1単位）、知財戦略特論（1単位）、フィジカルアセスメント特論（2単位）がん看護に関する病態生理論（2単位）、がん看護に関する理論（2単位）、がん治療支援に関わる看護援助論（2単位）、緩和ケア特論Ⅰ（2単位）、緩和ケア特論Ⅱ（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、緩和ケア演習Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅰ（2単位）、がん看護学実習Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅲ（6単位）</p> <p><選択科目>看護コンサルテーション特論（2単位）、看護倫理学特論（2単位）、看護学研究方法特論（2単位）、看護教育学特論（2単位）ほか57科目</p>
がんに関する専門資格との連携	附属病院はがん看護専門看護師（日本看護協会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来は緩和ケアに焦点を当てたカリキュラムを実施してきた。しかし、今後は初期治療から遺伝子パネルを使う可能性があることから、 <u>がんゲノム医療とそれに対する看護</u> について学ぶ教育内容を準備する（新規性）。また、アピアランスの考え方や体力を回復させる食の在り方を学ぶだけではなく、 <u>演習を通して、実践力を獲得する教育内容を準備する</u> （独創性）。本学医学部は、医学科、生命科学科、保健学科（検査技術科学専攻、看護学専攻）、附属病院で構成されていることから、関連する学問の専門家が多く、がん看護専門看護師に必要な教育を確実に実施することができる。医学図書館の活用、CNSコース学生用講義室の整備等、学生の学習環境が整っている。
指導体制	本学医科学研究科では、 <u>遺伝カウンセラー養成コースを設置しており、がん専門看護師コース学生も授業を受講することが可能である</u> 。遺伝カウンセリングに関する知識をもち、課題に対応できる専門看護師を育成し、 <u>がん予防の推進につなげる</u> 。また、医学専攻、医科学専攻の専門の異なる教員がチームとなり、1名の大学院生の指導を行い、実践力、研究力の育成をはかる。
修了者の進路・キャリアパス	これまでは島根大学医学部附属病院や松江市立病院など、山陰地域の学生が受験し、山陰地域で就職している。今後も継続して、 <u>山陰地域のがん看護の質向上に寄与する人材を育成し、所属施設においてがん看護の中核的な役割を果たすこと</u> が期待される。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	—	1	0	1	0	1	3
	県内の3つのがん拠点病院にがん看護専門看護師を最低2名ずつ配置することを目標にすると県内のがん看護専門看護師が4人のため、あと6年で3人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から2年に1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医系科学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門医養成コース（博士課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療には診断から治療、そして緩和・終末期医療に至るまで非常に多面的な要素が含まれる。当コースでは、これらの多面的要素をすべて網羅する教育を提供することにより、特にゲノム医療、化学療法、放射線療法、外科療法、緩和・終末期医療について高度な技術と知識を有するがん専門医を養成する。その過程で、第4期がん対策推進基本計画に挙げられる「がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材」並びに「新たながん治療法を開発できる人材」の育成にも寄与できるものと考えている。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位（指導教員の特別演習、研究指導を含む。）、選択科目6単位以上、計30単位以上を修得し、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目>生命・医療倫理学B（1単位）、多職種連携B（1単位）、臨床腫瘍学（1単位）、がん診療各論（1単位）、集学的がん治療の実際（2単位）、臨床研究の基礎および実践（2単位）、指導教員の特別演習（4単位）、指導教員の特別研究（12単位）</p> <p><選択科目>がん化学療法演習（2単位）、がん放射線療法演習（2単位）、乳がん治療演習（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、婦人科がん治療演習（2単位）、緩和ケアカンファレンス（2単位）、腫瘍外科治療演習（2単位）、小児がん治療演習（2単位）他</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の他、各種専門医の研修施設として認定されている。また、がんの緩和医療に関連する日本緩和医療学会認定専門医（日本緩和医療学会）、日本ペインクリニック学会専門医（日本ペインクリニック学会）の研修施設としても認定されている。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	複数診療科の医師や薬剤師、看護師など多職種の専門家が講義や実習などを行い、ゲノム医療、化学療法、放射線療法、外科療法、緩和・終末期医療など多面的要素を持つがん医療に習熟する高度がん医療人材を養成し、かつ集学的医療を提供できる人材を養成する教育内容を備えている。						
指導体制	がんゲノム医療拠点病院である広島大学の強みとして、ゲノム医療についての教育を行う機会に恵まれている。加えて、化学療法、放射線療法、外科療法、緩和・終末期医療など多面的要素を持つがん医療を習熟しつつ、より多数の症例を経験できるように、複数診療科が緊密に連携を取り合いながら指導を行う体制が整えられている。						
修了者の進路・キャリアパス	主として広島県のがん診療連携拠点病院（広島大学病院も含む）にて勤務し、がん診療に携わる。						
受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	10	10	10	10	10	10	60
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	当コースでは、複数診療科において症例経験を積むことができる体制を整えるが、その体制を維持できる受け入れ可能人数を根拠として毎年10名と設定した。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医系科学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師養成コース（博士課程）						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん治療および緩和ケアに関する高度な薬学的専門知識を有し、小児、AYA世代、高齢者すべてのがん患者に安心・安全かつ質の高いがん薬物療法を提供できる人材を養成する。また、がん薬物療法の質の向上やがんゲノム医療の推進に貢献できる臨床研究能力を備えた人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目18単位（病院薬剤学特別演習、病院薬剤学特別研究を含む）、選択科目12単位以上、計30単位以上を修得し、論文の審査及び試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目>生命・医療倫理学B（1単位）、多職種連携B（1単位）、病院薬剤学特別演習（4単位）、病院薬剤学特別研究（12単位） <選択科目>臨床腫瘍学（1単位）、放射線統合医科学（1単位）、薬物治療学（1単位）、がん診療各論（1単位）、死因究明学（1単位）、集学的がん治療の実際（2単位）他						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門薬剤師（日本病院薬剤師会）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）、緩和医療専門薬剤師（日本緩和医療薬学会）の研修施設として認定されている。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	各がん種の治療法に関する講義、緩和ケアチーム、薬剤部、看護部、臨床研究開発支援センターを含む各専門領域が開催するオンコロジーミーティングを通して、チーム医療や緩和ケアに必要な知識を幅広く習得できる。また、治療薬の選択からレジメン作成・監査、薬液調製、治療、外来治療や退院後の地域連携によるフォローアップまで、一連のがん薬物療法における課題を抽出し、それを解決するための臨床・基礎研究を実施する。						
指導体制	多くのがん種の症例を学ぶことができるように、広島大学病院薬剤部のがん専門薬剤師と複数診療科の医師、薬局のがん認定・専門薬剤師から指導を受ける体制を整えている。また、研究は指導教員グループがサポートする。						
修了者の進路・キャリアパス	博士（薬学）の学位を取得後、症例経験を積むことで、在学中に実施した学会発表や論文発表実績を利用して、がん専門薬剤師や緩和薬物療法専門薬剤師の資格を取得することができ、がん診療拠点病院等においてがん専門薬剤師として活躍が期待される。						
受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	1	1	1	1	1	6
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	広島県内の13のがん診療連携拠点病院にがん専門薬剤師を最低1人ずつ配置することを目標にし、現在の配置状況と過去の大学院志願者数を鑑み、受入れ目標人数を各年1人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医系科学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理士養成コース（修士課程）
対象職種・分野	その他の医療職
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	放射線治療において医師が行っている業務のタスク・シェア／シフトとして挙げられる治療計画業務補助を担い、医療現場で集学的なチーム医療を提供できる人材を育成する。緩和的放射線治療から高精度放射線治療に至るまで、幅広く全ての部位での放射線治療計画を行うための基礎的な知識・スキルを身につける。
修了要件・履修方法	必修科目23単位、選択科目7単位以上、計30単位以上を修得し、かつ研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目>生命・医療倫理学A（1単位）、多職種連携A（1単位）、放射線診断物理学（1単位）、放射線治療物理学（2単位）、核医学物理学（1単位）、放射線診断学・核医学（1単位）、放射線腫瘍学（2単位）、放射線治療物理学演習（2単位）、放射線計測学演習（2単位）、画像診断物理学演習（2単位）、核医学物理学演習（2単位）、放射線安全演習（2単位）、医歯科学特別研究（放射線腫瘍学）（4単位）</p> <p><選択必修>人体の構造（2単位）、人体の機能（2単位）、病因病態学（2単位）、生体防御学（1単位）、他</p>
がんに関する専門資格との連携	医学物理士認定認定機構より、認定医学物理教育コース（修士課程）として2013年4月より認定を受けている。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	広島大学病院と広島がん高精度放射線治療センターを主とした医療機関、多職種との交流により、最新のX線・電子線治療における治療計画とチーム医療の基礎を学ぶ。今回のがんプロでは、放射線治療において最も需要のあるX線・電子線による外部照射の基礎を学び、治療計画において医師とのタスクシェア／シフトに貢献でき、放射線治療現場での専門人材不足解消につながる即戦力となりうる医学物理士の養成を行う。
指導体制	<p>これまで広島大学では、がんプロにおける医学物理士養成コースでは修士課程のみを設定していたが、令和5年度から、医学物理士養成コースを以下の3段階の設定とし、各段階に応じた教育目的を明確化し、がん医療の人材育成の強化を図る。</p> <p>1. 修士課程：既設であり、引き続き医学物理士認定試験合格と医学物理研究に関する修士号取得を主目的とするが、新たに、広島大学・広島がん高精度放射線治療センターの連携により、最も症例数の多いX線・電子線による治療計画実習を充実化させる。修士課程では、放射線治療におけるタスク・シェア／シフトによるチーム医療の即戦力となる医学物理士の養成を行う。</p> <p>2. 博士課程：新設コース、広島大学病院のがん治療に関わる複数の診療科の教員が協力し、ビッグデータを用いた人工知能を応用し、医学物理学の専門家として、新しい集学的治療の開発に役立つ研究を遂行できる指導内容を充実させる。博士課程では、研究指導を主軸とした内容を実践する。</p> <p>3. 臨床研修課程（インテンシブコース）：新設、より高度な臨床研修に特化した教育コース。医学物理士認定取得者かつ、修士もしくは博士課程修了者を対象とした2年間の教育コース。広島大学・広島がん高精度放射線治療センター・岡山県津山市の「がん陽子線治療センター」等との連携により、X線・電子線・粒子線の他、小線源、内用療法、核医学治療など、幅広い放射線治療モダリティを用いた多くの症例を研修できる体制を整備する。臨床研修課程では、医学物理士としての、より先進的な多職種間連携や集学的治療に関する臨床研修をメインとする。</p>

修了者の進路・ キャリアパス	国内の大学病院、一般病院等で勤務する医学物理士						
受入開始時期	令和5年10月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	広島県内の13のがん診療連携拠点病院で医学物理士が配置されていない病院が半数あり、毎年1名ずつの医学物理士認定試験合格者を輩出できれば、県内の医学物理士の充足化を図れる。これまでに広島大学の医学物理士養成コースには、年2～5名ほどの入学実績があるため、がんプロセスへの受入れ目標人数を毎年2名と設定した。						
	2	2	2	2	2	2	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医系科学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理士養成コース（博士課程）
対象職種・分野	その他の医療職
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	高精度化が進む光子線治療や国内を中心に開発が進んでいる陽子線・重粒子線治療に関する物理学知識、医師と共に行う治療計画を行う上で必要な人体構造、機能に関する生物学的知識、併用治療である化学療法、手術療法、さらに免疫学療法に関する臨床的知識を身に付け、さらに、臨床データ、画像データ、遺伝子データを活用したマルチオミクス解析など人工知能を活用し治療効果を推定することでがん治療効果の改善、さらに放射線治療のオーダーメイド提供を目指し物理学的見地から安全確保をした上で最適化し、医療現場で集学的なチーム医療を提供できる人材を育成する。
修了要件・履修方法	必修科目24単位(指導教員の特別演習、研究指導を含む。)、選択科目6単位以上、計30単位以上を修得し、論文の審査及び試験に合格すること。
履修科目等	<必修科目>生命・医療倫理学B(1単位)、多職種連携B(1単位)、放射線腫瘍学特別演習(4単位)、放射線腫瘍学特別研究(12単位)、 <u>がん放射線治療法演習(6単位)</u> <選択科目>臨床腫瘍学(1単位)、放射線統合医科学(1単位)、がん診療各論(1単位)、集学的がん治療の実践(2単位)、臨床研究の基礎および実践(2単位)、他
がんに関する専門資格との連携	医学物理士認定機構の博士課程の認定申請を令和5年度中に行い、令和6年度からの認定を目指す。
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	広島大学病院ではこれまでに文部科学省の支援を受け、チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立を行ってきた。プロジェクトを通じて培った人材養成システムを本コースの学生にも適用することで臨床で行っている治療技術、臨床的な知識を得るため医師、物理士、診療放射線技師、看護師が包括的に教育を行う。また、がん予防、治療効果改善を目指した人工知能を中心とした教育を行い、がん治療の個別化を担う研究者育成を目指す。
指導体制	これまで広島大学では、がんプロにおける医学物理士養成コースでは修士課程のみを設定していたが、令和5年度から、 <u>医学物理士養成コースを以下の3段階の設定とし、各段階に応じた教育目的を明確化し、がん医療の人材育成の強化を図る。</u> 1. 修士課程 ：既設であり、引き続き医学物理士認定試験合格と医学物理研究に関する修士号取得が主目的とするが、新たに、広島大学・広島がん高精度放射線治療センターの連携により、最も症例数の多いX線・電子線による治療計画実習を充実させる。 <u>修士課程では、放射線治療におけるタスク・シェア/シフトによるチーム医療の即戦力となる医学物理士の養成を行う。</u> 2. 博士課程 ：新設コース、広島大学病院のがん治療に関わる複数の診療科の教員が協力し、ビッグデータを用いた人工知能を応用し、医学物理学の専門家として、新しい集学的治療の開発に役立つ研究を遂行できる指導内容を充実させる。 <u>博士課程では、研究指導を主軸とした内容を実践する。</u> 3. 臨床研修課程(インテンシブコース) ：新設、より高度な臨床研修に特化した教育コース。医学物理士認定取得者かつ、修士もしくは博士課程修了者を対象とした2年間の教育コース。広島大学・広島がん高精度放射線治療センター・岡山県津山市の「がん陽子線治療センター」等との連携により、X線・電子線・粒子線の他、小線源、内用療法、核医学治療など、幅広い放射線治療モダリティを用いた多くの症例を研修できる体制を整備する。 <u>臨床研修課程では、医学物理士としての、より先進的な多職種間連携や集学的治療に関する臨床研修をメインとする。</u>

修了者の進路・キャリアパス	国内の大学病院、一般病院で勤務する医学物理士、診療放射線技師 本コース修了後、海外の医学物理士レジデントを経て米国の医学物理士（米国医学物理士資格を有した教員を中心に海外の医学物理士に必要な教育を実施） 人工知能技術を活用したデータサイエンティスト（人工知能分野の研究開発を行っており、その技術を活用したキャリアパス） 製薬会社の創薬を中心とした開発部門（企業と共同研究を行い、企業ニーズに合った人材育成を行っている）						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small></small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1～2名の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	広島大学大学院医系科学研究科
教育プログラム・コース名	医学物理士臨床研修課程（インテンシブコース）
対象職種・分野	その他の医療職
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	放射線治療の医療現場における治療計画業務に限らず、医学物理士としての、放射線治療品質管理、集学的治療の実践など、最も使用頻度の高いX線・電子線の他、粒子線、小線源、内用療法、核医学治療など、幅広い放射線治療モダリティを用いた多くの症例を実践し、指導者立場で臨床現場を引っ張ることのできる医学物理士を養成する。
修了要件・履修方法	全ての放射線治療モダリティに関する医学物理士業務の臨床研修を実施し、放射線治療計画（治療準備含む）、放射線治療（照射録チェック含む）、放射線治療装置のQC、放射線治療計画のQC（MU計算含む）、放射線治療計画用CT趣味レーターのQC、位置照合装置のQC、放射線防護の内容を含んだ医学物理業務を幅広く習得する。その他、連携施設において核医学治療の研修も行う。
履修科目等	医学物理士認定機構のカリキュラムガイドラインに沿った臨床研修プログラムを構築
がんに関する専門資格との連携	医学物理士認定機構の臨床研修課程の認定申請を令和5年度中に行い、令和6年度からの認定を目指す。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	医学物理士としての先進的な臨床業務の研修をメインとするが、新たな治療法や人工知能などに関する研究環境を整備し、自発的な研究活動の支援を行う。
指導体制	<p>これまで広島大学では、がんプロにおける医学物理士養成コースでは修士課程のみを設定していたが、令和5年度から、医学物理士養成コースを以下の3段階の設定とし、各段階に応じた教育目的を明確化し、がん医療の人材育成の強化を図る。</p> <p>1. 修士課程：既設であり、引き続き医学物理士認定試験合格と医学物理研究に関する修士号取得が主目的とするが、新たに、広島大学・広島がん高精度放射線治療センターの連携により、最も症例数の多いX線・電子線による治療計画実習を充実化させる。修士課程では、放射線治療におけるタスク・シェア/シフトによるチーム医療の即戦力となる医学物理士の養成を行う。</p> <p>2. 博士課程：新設コース、広島大学病院のがん治療に関わる複数の診療科の教員が協力し、ビッグデータを用いた人工知能を応用し、医学物理学の専門家として、新しい集学的治療の開発に役立つ研究を遂行できる指導内容を充実させる。博士課程では、研究指導を主軸とした内容を実践する。</p> <p>3. 臨床研修課程（インテンシブコース）：新設、より高度な臨床研修に特化した教育コース。医学物理士認定取得者かつ、修士もしくは博士課程修了者を対象とした2年間の教育コース。広島大学・広島がん高精度放射線治療センター・岡山県津山市の「がん陽子線治療センター」等との連携により、X線・電子線・粒子線の他、小線源、内用療法、核医学治療など、幅広い放射線治療モダリティを用いた多くの症例を研修できる体制を整備する。臨床研修課程では、医学物理士としての、より先進的な多職種間連携や集学的治療に関する臨床研修をメインとする。</p>
修了者の進路・キャリアパス	国内の大学病院、一般病院等で勤務する指導者的医学物理士 大学における医学物理系の教員、研究所等の研究員
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	—	1	1	1	1	1	5
	広島大学その他、研修受け入れ先での受け入れ可能人数を鑑み、各年度1名の受け入れを設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	松山大学大学院医療薬学研究科						
教育プログラム・コース名	がん医療重点コース（正規課程）						
対象職種・分野	大学院医療薬学研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法に関して最新の知識を備え、がん医療現場における課題に対応でき、がん患者及びその家族に貢献できるチーム医療の担い手となるべき薬剤師。 ・がんに関する研究を通じて、がん治療及び予防に関する課題を提起する能力を身に付け、がん研究推進を担う研究者。 						
修了要件・履修方法	基礎科目より科学英語特論Ⅱを含む2単位以上、専門科目より必修2科目を含む8単位以上、特別研究より16単位、特別研修より病院研修（がん医療重点コース）を含む6単位以上（合計32単位以上）を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	基礎科目：科学英語特論Ⅰ、Ⅱ（各1単位）、専門科目：腫瘍学特論（2単位）、がん医療薬学特論（2単位）、臨床薬理学特論（2単位）等、特別研究：薬学特別研究（16単位）、特別研修：最適治療と実践薬学領域研修（3単位）、疾病と薬の分子基盤領域研修（3単位）、病院研修（がん医療重点コース）（3単位）						
がんに関する専門資格との連携	実習や講義において、がん専門薬剤師の資格をもつ薬剤師が講師に加わる。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに関する生理学から最近のがん薬物治療まで、臨床データの読み方、在宅・緩和医療、がん免疫療法等、がん薬物治療に特化した薬剤師として修得すべき基礎から応用までの科目を提供する。また、がん医療重点コースとしての病院研修（協力：愛媛大学医学部附属病院薬剤部）を開講し、がん医療の現場で顕在化している課題について、薬剤師に求められる医療に関する研修機会を提供する。						
指導体制	研究指導教員が指導責任者になり、大学院生は毎年6月に開催される大学院研究成果報告会における口頭発表と研究進捗報告書の提出が求められる。研究成果報告会は、基礎から臨床の様々な分野の大学院全教員が参加して討論する機会とされ、報告書も全教員でチェックする細かな指導を特徴とし、博士論文の研究がより高度に進展するよう研究科全体で支援する。						
修了者の進路・キャリアパス	がん医療現場における課題に対応できるチーム医療の担い手、リーダーとなる指導的立場の薬剤師、あるいは臨床的な課題解決能力を身に付けた研究者、大学教員。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	1	0	1	0	1	3
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	最近の大学院進学者からみて、志願者が少ないのが現状であるが、大学院定員3名のうち、本コース受入れ目標人数を隔年1人に設定する。本コースを特色の一つとして大学院進学を促し、がん薬物治療の知識をもった薬剤師の養成をめざす。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	松山大学大学院医療薬学研究科						
教育プログラム・コース名	がん薬物治療スキルアップコース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限（期間）	30時間						
養成すべき人材像	がん薬物療法に関する最新の知識や技術を修得し、がん患者及びその家族に貢献でき、チーム医療の担い手・リーダーとなるべきがん医療全般に精通した薬剤師。						
修了要件・履修方法	15日間の教育プログラムを8割以上履修した参加者には、修了時に本事業から認定証を発行する。						
履修科目等	松山大学大学院医療薬学研究科がん医療重点コース開講科目： <u>がん医療薬学特論</u> 、大学院医療薬学研究科が主催する <u>がんプロ公開講座</u>						
がんに関する専門資格との連携	講義において、がん専門薬剤師の資格をもつ薬剤師が講師に加わる。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高度な薬剤師として備えるべきがん医療における基盤となる専門・実践知識について、理論的・技術的背景に応じた臨床上の応用例を通して、臨床試験データの読み方、難治性の副作用、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、がん薬物療法でのチーム医療等に至るまでをコースとして提供する。						
指導体制	大学院がん医療重点コース担当の <u>がん医療現場における薬学教育・研究の経験がある大学院教員が直接アドバイザーとなり指導・支援するため、身近で細かな指導体制を特徴とする。</u>						
修了者の進路・キャリアパス	がん医療現場における課題に対応できるチーム医療の担い手、地域医療に貢献できる薬剤師						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	—	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	本コース受入れ目標人数を2人と設定し、特に愛媛県内の薬剤師向けに開講する。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科
教育プログラム・コース名	領域別腫瘍専門医養成コース（正規課程）
対象職種・分野	医学系研究科博士課程大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん領域で要求される専門性の高い知識と技術に加え豊かな人間性と高度な倫理観を有し、多職種でのチーム医療においてがん治療のリーダーシップを持って以下のがん関連学際領域に対応できるがん専門医を養成する。 ①外科領域 ②内科領域 ③放射線・臨床検査腫瘍学領域
修了要件・履修方法	3年次又は4年次までに所定の30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位審査に合格すること。
履修科目等	<p><共通科目・必修> 10単位 研究方法論応用(1単位)、悪性腫瘍の管理と治療(1単位)、医療倫理(1単位)、医療分野における知的財産(2単位)、医療対話学(0.5単位)、医療情報学(0.5単位) がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学(1単位)、がん臨床検査・病理・放射線診断学(0.5単位)、臓器別がん治療各論(2単位)、がん緩和治療(0.5単位) <専門科目・各領域必修> ①～③のうち2科目(4単位)</p> <p>①外科領域 消化器・腫瘍外科学特論Ⅰ(2単位)、消化器・腫瘍外科学特論Ⅱ(2単位)、泌尿器科学特論Ⅰ(2単位)、泌尿器科学特論Ⅱ(2単位)、産婦人科学特論Ⅰ(2単位)、産婦人科学特論Ⅱ(2単位)のうちいずれか2科目(4単位)</p> <p>②内科領域 消化器内科学特論Ⅰ(2単位)、消化器内科学特論Ⅱ(2単位)、病態制御内科学特論Ⅰ(2単位)、病態制御内科学特論Ⅱ(2単位)、呼吸器・感染症内科学特論Ⅰ(2単位)、呼吸器・感染症内科学特論Ⅱ(2単位)のうちいずれか2科目(4単位)</p> <p>③放射線・臨床検査腫瘍学領域 放射線腫瘍学特論Ⅰ(2単位)、放射線腫瘍学特論Ⅱ(2単位)、臨床検査・腫瘍学特論Ⅰ(2単位)、臨床検査・腫瘍学特論Ⅱ(2単位)のうちいずれか2科目(4単位)</p> <p><専門科目(演習)・必修> 16単位 ・腫瘍演習科目(4単位)・多職種連携演習(4単位)・研究演習(8単位)</p>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	本コースでは、共通科目についてはe-learnig、専門科目は面接授業により効果的に高度専門教育が受けられる環境を整備する。外科、内科及び放射線腫瘍学それぞれの学際領域において、多職種が参加するカンサーボード、カンファレンスやirAE(免疫関連副作用)等の演習などを通じて、最新のがん診療の知見や問題点を共有し、専門的で幅広い知識と技術を修得する。
指導体制	研究指導教員が指導責任者となり専門的な指導を行うとともに、山口県がん診療連携拠点病院として学内のみならず県内の医師による多診療科の医師によるがん診療体制を整備する。また、3年次には、学生が所属する領域(医学系研究科は4領域)の領域長が論文進捗や単位取得状況を確認する報告会を開催し、組織による研究及び論文作成支援体制を構築する。
修了者の進路・キャリアパス	各地域のがん診療拠点病院等ではがん診療の質的向上や均てん化に寄与するとともに専門性を持った高度な医療を提供する。
受入開始時期	令和5年7月

受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	2	2	2	2	2	12
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から各領域毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を12人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻
教育プログラム・コース名	がん看護高度実践看護師コース（正規課程）
対象職種・分野	医学系研究科 大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	がんの予防や健康教育とともに、がんの治療に伴う看護および治療後の生活調整を支援し、がん患者の体験する症状、精神的苦痛の緩和や、がん終末期ケアが提供できるケアとケアを融合した高度な能力を習得させ、がん患者および家族のQOL維持・向上に働きかけるケアを実践できる専門看護師を養成する。 がんに罹患する人々は、小児から高齢者と幅広く、特にAYA世代のがん患者のQOLの低さが目立つ。若年のがんは遺伝性のものも多い。そのため、遺伝子異常に基づくゲノム医療に対応できること、各世代に応じたトータルペインや治療を習得すること、そして特にAYA世代のがん患者のQOLを考慮した看護を実践できる専門看護師を養成する。
修了要件・履修方法	必須科目15科目30単位、選択科目4科目8単位、合計38単位以上を修得し、大学院が行う学位審査に合格すること。
履修科目等	<必修科目> 臨床薬理学特論(2単位)、フィジカルアセスメント特論(2単位)、病態生理機能学特論(2単位)、がん病態生理学特論(2単位)、がん看護理論特論(2単位)、がん看護援助特論(2単位)、がん緩和ケア学特論Ⅰ(2単位)、がん緩和ケア学特論Ⅱ(2単位)、 <u>がん緩和ケア学特論Ⅲ(2単位)</u> 、がん緩和ケア学特論Ⅳ(2単位)、がん看護学実習Ⅰ(2単位)、がん看護学実習Ⅱ(2単位)、がん看護学実習Ⅲ(2単位)、がん看護学実習Ⅳ(2単位)、がん看護学実習Ⅴ(2単位)、特別研究(10単位) <選択科目> 看護倫理学特論(2単位)、看護学研究方法特論(2単位)、看護管理学特論(2単位)、看護理論特論(2単位)、看護教育学特論(2単位)、コンサルテーション論(2単位)、 <u>遺伝看護学特論(2単位)</u>
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師（日本看護協会）育成のための研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	38単位の教育課程を施行し、より高度な看護実践能力を持つ専門看護師を養成する。がん緩和ケア学特論Ⅲで展開している多職種による緩和的治療、ケアの内容を強化し、今回はAYA世代のがん患者の看護やがんゲノムなど遺伝に関する内容を追加し、AYA世代のがん患者に対応できる専門看護師を養成する。AYA世代のがん患者の看護を実践する専門看護師の参加を予定している。
指導体制	本学附属病院の遺伝・ゲノム診療部でHBOCのシステムができ、ゲノムも医療者コーディネーター養成講座も設置しており、がん看護専門看護師コースの学生も受講することが可能である。遺伝に関する知識を修得し、複雑な課題に対応できる専門看護師を育成し、がん予防及びAYA世代のがん患者への看護につなげる。また、科目の中に演習を入れ、がん看護学を専門とするコース責任者を中心に、がん看護専門看護師、医師（緩和医療学・外科学・内科学・婦人科学・放射線医学・病理学など）、薬剤師、看護教員（疼痛看護学・リンパ浮腫ケア・看護教育）、健康運動士（運動）、臨床心理士など、山口大学ならではの多彩な領域の実践家の指導によって、臨地で活かせる様、組み立てているのが強みである。
修了者の進路・キャリアパス	修了後、がん看護専門看護師のライセンスを取得し、入院患者・家族だけでなく、外来、通院患者など複雑な問題を抱える患者・家族へケアや情報を提供する。特にAYA世代のがん患者・家族ケアは宇部市が大学と協働してプログラムを構築する希望があり、その会議にも修了生は参画する。

受入開始時期	令和5年7月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び合格者数から毎年0～1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を0～1人と設定。						

教育プログラム・コースの概要

大学名等	山口大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍免疫専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学系研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	専門的な知識と技術、研究能力並びに豊かな人間性と高度な倫理観を備え、多様化するがん治療に従事するプロフェッショナルの一員として、がんを横断的・集学的に診療し、標準的化学療法およびCAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法が実施できる腫瘍免疫専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	3年次又は4年次までに所定の30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p><共通科目・必修> 10単位 研究方法論応用(1単位)、悪性腫瘍の管理と治療(1単位)、医療倫理(1単位)、医療分野における知的財産(2単位)、医療対話学(0.5単位)、医療情報学(0.5単位) がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学(1単位)、がん臨床検査・病理・放射線診断学(0.5単位)、臓器別がん治療各論(2単位)、がん緩和治療(0.5単位)</p> <p><専門科目・必修> 4単位 免疫学特論Ⅰ(2単位)、免疫学特論Ⅱ(2単位)</p> <p><専門科目(演習)・必修> 16単位 ・腫瘍演習科目(4単位)・多職種連携演習(4単位)・研究演習(8単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは、共通科目についてはe-learning、専門科目は面接授業により効果的に高度専門教育が受けられる環境を整備する。 多職種が参加するキャンサーボード、カンファレンスやirAE（免疫関連副作用）演習などを通じて、最新のがん診療の知見や問題点を共有し、専門的で幅広い知識と技術を修得する。さらに、他施設の免疫療法を含めたがん治療を経験することを目的に、国内外のがん診療連携拠点病院及び研究施設に短期間研修するプログラムを提供する。						
指導体制	本学の強みであるがん免疫療法の研究開発を担う教員が指導責任者となり専門的な指導を行うとともに、山口県がん診療連携拠点病院として学内のみならず県内の医師による多診療科の医師によるがん診療体制を整備する。また、3年次には、学生が所属する領域（医学系研究科は4領域）の領域長が論文進捗や単位取得状況を確認する報告会を開催し、組織による研究及び論文作成支援体制を構築する。						
修了者の進路・キャリアパス	各地域のがん診療拠点病院等でがん診療の質的向上や均てん化に寄与するとともに専門性を持った高度な医療を提供する。						
受入開始時期	令和5年7月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	2	2	2	2	2	12
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から各領域毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を12人と設定。						

地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成

中国・四国がんプロ コンソーシアム協議会

運営委員会・カリキュラム企画運営委員会

管理・運営



事業報告

評価

外部評価委員会

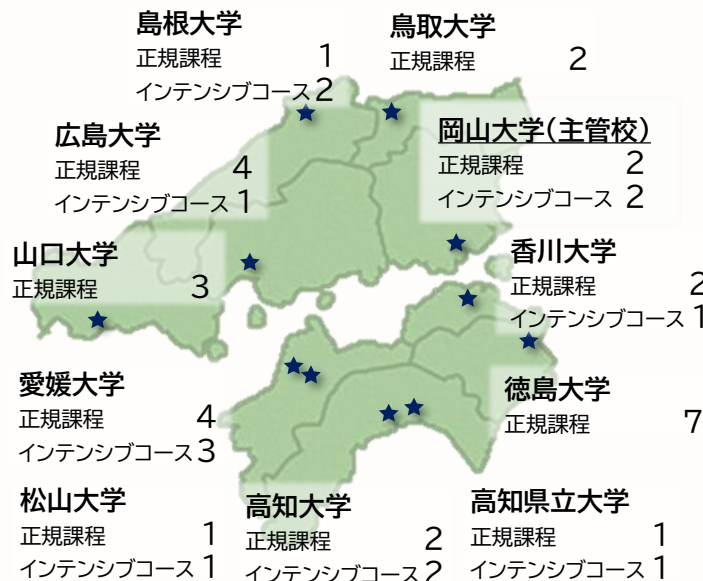
アウトプット

アウトカム

11大学の教育を連携させ活かす
ワーキンググループ

がん薬物療法・腫瘍内科専門医
腫瘍外科医
放射線治療医
歯科・歯科衛生士
がん専門薬剤師
がん専門看護師・リカレント教育
医学物理士
がん専門栄養士
FD・生涯教育
緩和療法・在宅がん医療
ゲノム医療
希少がん
小児がん・AYA世代がん
老年腫瘍

- ✓各大学の強みを活かした**新規教育コース**の開講
- ✓新たな大学間連携での**インテンシブコース**の開発
 - ・遠伝情報に基づく、ぬくもりのあるがん医療実践者を育成するコース（4大学）
 - ・放射線治療・緩和的放射線治療医コース（2大学）



がん医療現場で顕在化した課題

集学的な痛みの治療・ケアを担う人材	集学的な疼痛緩和を担う人材育成 緩和・在宅医療教育体制の推進
地域に定着する高度専門医療人の育成	ICTによる放射線治療専門医・病理診断医の養成
がん関連学際領域に対応できる人材	老年腫瘍学・腫瘍循環器学に関する教育科目の充実化
がん予防の推進	
がんゲノム医療、遺伝の専門医療人材	遺伝カウンセラー等、多職種専門人育成と多職種連携によるがん予防医療の推進
がん経験者のケアにあたる人材	社会的・身体的・精神的ケアを行う全人的医療教育
新たな治療法の開発	
個別化医療、創薬研究を担う人材	腫瘍融解ウイルスを用いた遺伝子治療、固形癌に対するCAR-T療法の開発

中国・四国がんプロコンソーシアム全体の共通の取り組み

正規課程学生に対して

- ✓ 多職種チーム医療を学ぶ合同演習
- ✓ e-learningによる共通の専門科目
- ✓ がん関連専門資格取得の支援
- ✓ 海外・国内研修の機会を提供

医療従事者に対して

- ✓ 各種インテンシブコースによるリカレント教育の推進
- ✓ がん関連専門資格取得の支援
- ✓ 研修、講演会の開催

市民に対して

- ✓ 小中高生へのがん教育
- ✓ 市民講座による最新情報の提供
- ✓ がんサバイバーや患者会との連携